
高価な真珠

高価な真珠

末日聖徒イエス・キリスト教会
初代預言者、聖見者、啓示者

ジョセフ・スミスによる
啓示と翻訳と談話の選集

序
文

『高価な真珠』は、末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰と教義の多くの重要な事項に關連のある、えりすぐった資料の選集である。これらの記事は、預言者ジョセフ・スミスによつて翻訳され準備されて、そのほとんどがその当時の教会の定期刊行物に掲載されたものである。

『高価な真珠』という表題が付けられた最初の選集は、千八百五十一年に、当時十二使徒評議會会員であり、英國伝道部の会長でもあったフランクリン・D・リチャーズ長老によつて作成された。その目的は、ジョセフ・スミスの時代に限られた部数しか刊行されなかつた幾つかの重要な記事を、人々がもっと容易に入手できるようにすることであつた。ヨーロッパとアメリカの各地で教員が多くなるにつれて、これらの記事を手でできるようにすることが必要となつた。そして、『高価な真珠』は広く用いられるようになり、その後、千八百八十年十月十日に、ソルトレーク・シティーにおける総大会で、大管長会の提議によつて教会の標準聖典の一つとなつたのである。

さらに教会の必要に応じて、内容に幾つかの改訂が加えられた。千八百七十八年には、初版に含まれていなかったモーセの書の一部が加えられた。千九百二年には、『教義と聖約』に重複して掲載されていた幾つかの部分が『高価な真珠』から削除された。千九百二年にはまた、章と節に分けられ、脚注が付けられた。千九百二十一年には、初めて二段組になり、索引が付いた。その後、千九百七十六年四月まで変更はなかつたが、この年に二つの啓示が加えられた。これら二つの啓示は、千九百七十九年に『高価な真珠』から『教義と聖約』に移された。それが現在の『教義と聖約』第百三十七章と第百三十八章である。また、現在の版には、内容を初期の記録と一致させるために幾つかの変更が加えられている。

以下は、現在の内容についての簡単な紹介である。

- 一、モーセ書(抜粋)。千八百三十年六月にジョセフ・スミスが翻訳を始めた、『聖書』のジョセフ・スミスの創世記からの抜粋。

二、アブラハム書。アブラハムの書き物から靈感を受けて

翻訳されたもの。ジョセフ・スミスはエジプトのパピルスを幾つか手に入れた後、千八百三十五年に翻訳を開始した。その翻訳文は、イリノイ州ノーブールで千八百四十二年三月一日から *Times and Seasons* (『タイムズ・アンド・シーズンズ』) に連載された。

三、ジョセフ・スミス・マタイ。『聖書』のジョセフ・スミス訳の中の、マタイの証からの抜粋。『新約聖書』の翻訳を始めるようにとの神の指示については、教義と聖約第四十五章六十一節を参照。
 四、ジョセフ・スミス歴史。ジョセフ・スミスの公式の

証と歴史からの抜粋。これは、彼と筆記者たちが千八百三十八―千八百三十九年に準備し、イリノイ州ノーブールで千八百四十二年三月十五日から *Times and Seasons* (『タイムズ・アンド・シーズンズ』) に連載されたものである。

五、未日聖徒イエス・キリスト教会の信仰簡条。ウエントワース書簡として一般に知られた教会の略史とともに、千八百四十二年三月一日に *Times and Seasons* (『タイムズ・アンド・シーズンズ』) に掲載されたジョセフ・スミスの声明。

モーセ書

(抜粋)

預言者^{よげんしや}ジヨセフ・スミスに啓示^{けいじ}された「**聖書**」の翻訳からの抜粋、千八百三十年六月ー千八百三十一年二月。

第 1 章

(千八百三十年六月)

神^{かみ}がモーセに御自身^{ごじしん}を現^{あらわ}される。モーセ、変貌^{へんぼう}する。サタンと相対^{あいで}する。人々の住む多くの世界^{せかい}を見る。無数の世界^{せかい}が御子^{おんこ}によって創造^{そうぞう}された。神の業^{わざ}と栄光^{えいこう}は人の不死不滅^{ふしふめつ}と永遠^{えいゑん}の命^{いのち}をもたらすことである。

1 モーセが非常に高い山に連れて行かれたときに、神^{かみ}が①モーセに語^{かた}られた御言葉^{みことば}。

2 このとき、彼は顔^{かほ}と顔^{かほ}を合^あわせて神^{かみ}にまみえ、神^{かみ}と語^{かた}り、神の栄光^{えいこう}がモーセのうえにあつた。それゆえ、モーセは神の臨在^{りんざい}に堪^たえることができた。

3 神^{かみ}はモーセに言^いわれた。「見^みよ、わたしは全能^{ぜんねん}の

主^{しゅ}なる神^{かみ}であり、無窮^{むきゆう}とはわたしの名^なである。わたしは、日の初^{はじ}めもなく年の終^おわりもないからである。これは無窮^{むきゆう}ではないか。

4 また見^みよ、あなたはわたしの子^こである。それゆえ、見なさい。そうすれば、わたしはあなたに、わたしの手^てで造^{つく}られたものを見せよう。しかし、すべてではない。わたしの業^{わざ}は終^おわりがないからである。わたしの言葉^{ことば}もそうである。それらは決して絶^ええることがないからである。

5 それゆえ、だれもわたしのすべての栄光^{えいこう}を見ることなしに、わたしのすべての業^{わざ}を見^み尽くすことはできない。また、だれもわたしのすべての栄光^{えいこう}を見ながら、その後^{のち}、肉^{にく}体^{たい}をもつて地上^{ちしやう}にとどまることはできない。

6 わたしの子^こモーセよ、わたしはあなたに一つの業^{わざ}を用意^{ようい}している。あなたはわたしの独^{ひとり}り子^こにかたどられてい^いる。わたしの独^{ひとり}り子^こは、現在^{げんざい}も将来^{しやうらい}も救^{すく}い主^{ぬし}である。彼は恵^{あは}れと真^ま理^りに満^みちているからである。しかし、わたしのほかに神^{かみ}はおらず、すべてのものはわたしとともにある。わたしはそれらすべてを知^しっているからである。

モーセ書 第 1 章

- 1 ① GS「モーセ」
- 2 ② アル12、30
- 3 ① 民数12、6-8、
- 4 ② 申命5、10、教義34、11、
- 5 ③ 申命5、10、教義34、11、
- 6 ④ 申命5、10、教義34、11、
- 7 ⑤ 申命5、10、教義34、11、
- 8 ⑥ 申命5、10、教義34、11、
- 9 ⑦ 申命5、10、教義34、11、
- 10 ⑧ 申命5、10、教義34、11、
- 11 ⑨ 申命5、10、教義34、11、
- 12 ⑩ 申命5、10、教義34、11、
- 13 ⑪ 申命5、10、教義34、11、
- 14 ⑫ 申命5、10、教義34、11、
- 15 ⑬ 申命5、10、教義34、11、
- 16 ⑭ 申命5、10、教義34、11、
- 17 ⑮ 申命5、10、教義34、11、
- 18 ⑯ 申命5、10、教義34、11、
- 19 ⑰ 申命5、10、教義34、11、
- 20 ⑱ 申命5、10、教義34、11、
- 21 ⑲ 申命5、10、教義34、11、
- 22 ⑳ 申命5、10、教義34、11、
- 23 ㉑ 申命5、10、教義34、11、
- 24 ㉒ 申命5、10、教義34、11、
- 25 ㉓ 申命5、10、教義34、11、
- 26 ㉔ 申命5、10、教義34、11、
- 27 ㉕ 申命5、10、教義34、11、
- 28 ㉖ 申命5、10、教義34、11、
- 29 ㉗ 申命5、10、教義34、11、
- 30 ㉘ 申命5、10、教義34、11、
- 31 ㉙ 申命5、10、教義34、11、
- 32 ㉚ 申命5、10、教義34、11、
- 33 ㉛ 申命5、10、教義34、11、
- 34 ㉜ 申命5、10、教義34、11、
- 35 ㉝ 申命5、10、教義34、11、
- 36 ㉞ 申命5、10、教義34、11、
- 37 ㉟ 申命5、10、教義34、11、
- 38 ㊱ 申命5、10、教義34、11、
- 39 ㊲ 申命5、10、教義34、11、
- 40 ㊳ 申命5、10、教義34、11、
- 41 ㊴ 申命5、10、教義34、11、
- 42 ㊵ 申命5、10、教義34、11、
- 43 ㊶ 申命5、10、教義34、11、
- 44 ㊷ 申命5、10、教義34、11、
- 45 ㊸ 申命5、10、教義34、11、
- 46 ㊹ 申命5、10、教義34、11、
- 47 ㊺ 申命5、10、教義34、11、
- 48 ㊻ 申命5、10、教義34、11、
- 49 ㊼ 申命5、10、教義34、11、
- 50 ㊽ 申命5、10、教義34、11、

7 さて見よ、わたしの子モーセよ、この一つのことを、わたしはあなたに示す。あなたが世にいるからである。今わたしはあなたにそれを示す。」

8 そこでモーセは眺めて、自分が創造されて住んでいる世界を見た。モーセは世界とその果てと、現在いる人の子らと、過去に創造された人の子らすべてを見た。そして、これらのことに彼はひどく驚くとともに、不思議に思った。

9 それから、神がモーセのもとから去って行かれたので、神の栄光はモーセのうえになく、モーセは一人残された。彼は一人残されると、地に倒れた。

10 さて、多くの時間が過ぎて、モーセは人としての本来の力を再び取り戻し、独り言を言った。「今これで、わたしは、人は取るに足りないものであることが分かった。このことは、思ってもみないことだった。

11 だが今、わたしは自分の目で神を見た。しかし、わたしの肉体の目ではなく、霊の目で見た。肉体の目では見られなかったであろう。神の御前では枯れて死んでしまっていたはずだ。しかし、神の栄光がわたしのうえにあり、わたしは神の御前

で変貌したので、神の御顔を見た。」

12 さて、モーセがこれらの言葉を語ったとき、見よ、サタンが来て、彼を誘惑して言った。「人の子モーセよ、わたしを拝みなさい。」

13 そこで、モーセはサタンを見て言った。「おまえはだれだ。見よ、わたしは、神の独り子にかたどられている神の子だ。おまえの栄光がどこにあるので、わたしがおまえを拝まなければならないのか。

14 見よ、わたしは、神の栄光がわたしのうえに及んで、神の御前で変貌しなかったならば、神を見ることはできなかつた。ところが、今わたしは肉体のまま、おまえを見ることのできる。実にそのとおりではないか。

15 わたしの神の御名がほめたたえられるように。神の御霊はまだわたしから完全には退き去っていない。そうでなければ、おまえの栄光はどこにあるのか。それはわたしにとつて闇だからだ。わたしはおまえと神とを区別することができる。神はわたしに、『神を礼拝しなさい。あなたは神にのみ仕えるべきである』と言われたからである。

16 サタンよ、退け。わたしを欺くな。神はわたし

8 ① モセ 2:1
 ② モセ 1:27
 ③ 詩篇 8:3-4
 10 ① ダニ 10:8, 17,
 1 ニフ 17:47,
 アル 27:17,
 ジル 歴史 1:20
 ② ダニ 4:35
 ③ ヒラ 12:7
 11 ① GS「神 神会」
 ② 教義 67:10, 13,
 モセ 6:36
 ③ 出エ 19:21
 ④ 出エ 20:19, 21
 ⑤ ④
 ⑥ 創世 32:30,
 モセ 7:4
 12 ① モセ 4:1-4,
 ② モセ 6:49,
 ③ GS「悪魔」
 13 GS「誘惑」
 ① 詩篇 82:6,
 ヘブ 12:9,
 ② 一ヨハ 3:2
 14 ① GS「変貌」
 ② GS「マタ 17:1-8」
 15 ① GS「マタ 4:10」
 ② GS「礼拝」
 ③ サ上 7:3,
 ④ 二コ 13:24

に、『あなたはわたしの独り子にかたどられてい
る』と言われたからである。

17 神はまた、燃えるしばの中からわたしを呼ばれ
たとき、わたしに戒めを与えて、『わたしの独り子
の名によって神に呼び求め、わたしを礼拝しなさい』
とも言われた。」

18 さらにモーセは言った。「わたしは神に呼び求め
ることをやめない。わたしには神に伺うことがほかに
ある。神の栄光がわたしのうえにあつたので、わた
しは神とおまえとを区別することができる。サタ
ンよ、立ち去れ。」

19 さて、モーセがこれらの言葉を語り終えると、サ
タンは大声で叫び、地上でわめきたてて、「わたし
が独り子だ。わたしを拝め」と命じて言った。

20 そこで、モーセはひどく恐れ始めた。そして、恐
れ始めると、地獄の惨害を目にした。それでも、
彼は神に呼び求めたので、力を与えられた。そこ
で、彼は命じて言った。「サタンよ、わたしから離
れ去れ。わたしは栄光の神であられるこの唯一の神
のみを礼拝するからである。」

21 すると、サタンはおののき始め、地が揺れ動い

た。モーセは力を与えられ、神に呼び求めて言っ
た。「独り子の御名によって言う。サタンよ、立ち
去れ。」

22 するとサタンは、涙を流し、泣きわめき、歯ぎし
りをしながら、大声で叫んだ。そしてそこから、す
なわちモーセの前から立ち去って、姿が見えなくな
った。

23 さて、このことについてモーセは証を述べた。し
かし、悪事のゆえにそれは人の子らの中に知られて
いない。

24 さて、サタンがモーセの前から立ち去ったと
き、モーセはその目を天に向け、御父と御子のこと
を証される聖霊に満たされた。

25 そして、彼は神の名を呼ぶと、再び神の栄光を見
た。神の栄光が彼のうえにあつたからである。そし
て、彼は一つの声が告げられるのを聞いた。「モー
セよ、あなたは幸いである。全能者であるわたしが
あなたを選び、あなたは多くの水よりも強くされ
るからである。あたかもあなたが神であるかのよ
うに、水はあなたの命令に従うであろう。」

26 見よ、わたしは、まことにあなたの生涯の最後

17 16
① モセ 1
② 出エ 3
③ 2
20 19
① GS「地獄」
② GS「歴史」
③ GS「神権」
22 21
① GS「悪魔」
② GS「折り」
25 24
① GS「聖霊」
② 出エ 4
③ GS「神権」
16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

まであなたとともにいる。あなたはわたしの民を、すなわちわたしの選民イスラエルを奴隷の状態から救い出さなければならぬからである。」

27 また、その声はまだ語っておられるうちに、モーセはその目を向けて、地を、まことに、そのすべてを見た。彼が見なかつたものはちり一つもなく、彼は神の御霊によってそれを見極めた。

28 また、彼は地に住む者も見た。彼が見なかつた者は一人もなかつた。彼は神の御霊によって見極めた。その数は多く、まことに海辺の砂のように数え切れなかつた。

29 また、彼は多くの地を見た。それぞれの地は地球と呼ばれ、その面に住む者がいた。

30 そこで、モーセは神に呼び求めて言った。「どうぞわたしにお話しください。これらのものはどうしてこうなのですか。そして、あなたはこれらのものを何によってお造りになったのですか。」

31 見よ、主の栄光がモーセのうえにあつたので、モーセは神の前に立ち、顔と顔を合わせて神と語つた。そして、主なる神はモーセに言われた。「わたし自身に目的があつてこれらのものを造つた。こ

こに知恵があり、それはわたしの内にある。

32 わたしの力の言葉によって、わたしはこれらのものを創造した。わたしの力の言葉とは、恵みと真理に満ちている独り子のことである。

33 無数の世界を、わたしは創造した。また、わたし自身に目的があつてこれらを創造した。子によって、わたしはこれらを創造した。子とは、わたしの独り子のことである。

34 また、すべての人の最初の者を、わたしはアダムと名付けた。すなわち、数多である。

35 しかし、この地球とこの地球に住む者の話だけをあなたにしよう。見よ、わたしの力の言葉によって過ぎ去つた多くの世界がある。また、現在ある世界も多くあり、それらは人にとつて数え切れない。しかし、わたしにはすべてのものが数えられている。それらはわたしのものであり、わたしはそれらを知っているからである。」

36 そこで、モーセは主に言った。「おお、神よ、あなたの僕を憐れんでください。そして、この地球とこの地球に住む者と、また天について、わたしにお話しください。そうすれば、あなたの僕は満足し

26 ① GS「選ばれた者」

② 列上 8・51・53

③ 「イスラエル」

④ ① ニフ 17・23・25

② ④ 出エ 3・7・12

③ ① 教義 88・47

④ モセ 1・8

31 ① GS「地球」

② ① 申命 5・4

③ ① GS「地」

④ ① 申命 5・4

⑤ ① 申命 5・4

⑥ ① 申命 5・4

⑦ ① 申命 5・4

⑧ ① 申命 5・4

⑨ ① 申命 5・4

⑩ ① 申命 5・4

⑪ ① 申命 5・4

⑫ ① 申命 5・4

⑬ ① 申命 5・4

⑭ ① 申命 5・4

⑮ ① 申命 5・4

⑯ ① 申命 5・4

⑰ ① 申命 5・4

⑱ ① 申命 5・4

⑲ ① 申命 5・4

⑳ ① 申命 5・4

㉑ ① 申命 5・4

㉒ ① 申命 5・4

㉓ ① 申命 5・4

㉔ ① 申命 5・4

㉕ ① 申命 5・4

㉖ ① 申命 5・4

㉗ ① 申命 5・4

㉘ ① 申命 5・4

㉙ ① 申命 5・4

㉚ ① 申命 5・4

㉛ ① 申命 5・4

ます。」

37そこで、主なる神はモーセに言われた。「もろもろの天は数多く、人には数えることができない。しかし、わたしには数えられている。それらはわたしのものだからである。

38一つの地球とその天が過ぎ去ると、まことに別のものが生じる。わたしの業にもわたしの言葉にも、終わりがないのである。

39見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。

40さて、わたしの子モーセよ、わたしはあなたが立っているこの地球についてあなたに語る。あなたはわたしが語ることを書き記さなければならぬ。

41人の子らがわたしの言葉を価値のないものと見なし、あなたが書き記す書からその多くを取り去る日に、見よ、わたしはあなたのような者を一人立てよう。そして、あなたが書き記すものは、人の子ら、すなわちそれらを信じるすべての者の中に再びあるであらう。」

42（これらの言葉は、その名が人の子らに知られる

ことのない山の中でモーセに語られた。そして今、それらはあなたに告げられている。信じる者のほかにだれにもそれらを示してはならない。まことにそれとおりでである。アーメン。)

第2章

(千八百三十年六月十日)

神は天と地を創造される。すべての生き物が創造される。神は人を造り、ほかのすべてのものを治めさせられる。

1さて、主はモーセに語って言われた。「見よ、わたしはこの天とこの地についてあなたに示す。わたしが語る言葉を書き記しなさい。わたしは初めであり終わりであり、全能の神である。わたしは独り子によって、わたしはこれらのものを創造した。まことに初めに、わたしは天とあなたが立っている地とを創造した。

2地は形なく、むなしかった。わたしは深い淵の面に闇を来らせ、わたしの御霊が水の面を動いていた。わたしは神である。

37 ① アフ4・1、
38 ① GS「天」、
39 ① モセ1・4
② GS「不死不滅」
③ GS「永遠の命」
④ GS「贖いの計画」
⑤ GS「栄光」
⑥ GS「栄光」
40 ① ① 1ニフ29・11・12
② ① 1ニフ13・23・32
③ ② 2ニフ3・7・19
④ ① 1ニフ13・32、
39 ④
41 ④
42 ① モセ1・1
② 教義9・2

第2章

1 ① GS「天」
2 ② モセ1・8
3 ③ モセ1・30、36
4 ④ GS「神、神会」
父なる神」
5 ⑤ GS「独り子」
6 ⑥ GS「創造」
7 ⑦ GS「創造」
8 ⑧ GS「創造」
9 ⑨ GS「創造」
10 ⑩ GS「創造」
11 ⑪ GS「創造」
12 ⑫ GS「創造」
13 ⑬ GS「創造」
14 ⑭ GS「創造」
15 ⑮ GS「創造」
16 ⑯ GS「創造」
17 ⑰ GS「創造」
18 ⑱ GS「創造」
19 ⑲ GS「創造」
20 ⑳ GS「創造」
21 ㉑ GS「創造」
22 ㉒ GS「創造」
23 ㉓ GS「創造」
24 ㉔ GS「創造」
25 ㉕ GS「創造」
26 ㉖ GS「創造」
27 ㉗ GS「創造」
28 ㉘ GS「創造」
29 ㉙ GS「創造」
30 ㉚ GS「創造」
31 ㉛ GS「創造」
32 ㉜ GS「創造」
33 ㉝ GS「創造」
34 ㉞ GS「創造」
35 ㉟ GS「創造」
36 ㊱ GS「創造」
37 ㊲ GS「創造」
38 ㊳ GS「創造」
39 ㊴ GS「創造」
40 ㊵ GS「創造」
41 ㊶ GS「創造」
42 ㊷ GS「創造」

3 神であるわたしは、『光あれ』と言った。すると、光があった。

4 神であるわたしが光を見ると、その光は良かった。神であるわたしは光と闇とを分けた。

5 神であるわたしは光を昼と呼び、闇を夜と呼んだ。これを、わたしの力の言葉によって行った。そして、それはわたしが語ったようになった。夕となり、また朝となった。第一日である。

6 さらにまた、神であるわたしは、『水の間に大空あれ』と言った。すると、わたしが語ったようになった。また、『大空が水と水とを分けよ』と言った。すると、そのようになった。

7 神であるわたしは大空を造り、水を、すなわち、大空の下の大いなる水と大空の上の水とを分けた。そして、わたしが語ったようになった。

8 神であるわたしは大空を天と呼んだ。夕となり、また朝となった。第二日である。

9 神であるわたしは、『天の下の水は一つ所に集まれ』と言った。すると、そのようになった。また、神であるわたしは、『乾いた地あれ』と言った。すると、そのようになった。

10 神であるわたしは乾いた地を陸と呼び、水の集まった所を海と呼んだ。そして、神であるわたしは見て、自分が造ったすべてのものをよしとした。

11 神であるわたしは言った。『地は青草と、種を持つ草と、種類に従って実を結ぶ果樹と、種のある実を結ぶ木を地の上に生えさせよ。』すると、わたしが語ったようになった。

12 地は青草と、種類に従って種を持つすべての草と、種類に従って種のある実を結ぶ木とを生えさせた。そして、神であるわたしは見て、自分が造ったすべてのものをよしとした。

13 夕となり、また朝となった。第三日である。

14 神であるわたしは言った。『天の大空に光があって、昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、

15 天の大空にあって地を照らす光となれ。』すると、そのようになった。

16 神であるわたしは二つの大きな光を造り、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせた。大きい光とは太陽であり、小さい光とは月であった。また、もろもろの星も、わたしの言

3 ① 教義88・6・13、
 GS「光」キリストの「光」
 4 ① 創世1・4、
 アプ4・4
 5 ① モセ1・6
 2コリ4・6
 6 ③ 創世1・5
 7 ① アプ4・9・10
 8 ① GS「天」
 9 ① 創世1・9、
 アプ4・9
 10 ① GS「地球」(地)
 11 ① 創世1・11・12、
 アプ4・11・12
 16 アプ1・16

葉に從つて造られた。

17 神であるわたしは、これらを天の大空に置いて地を照らさせ、

18 太陽に昼をつかさどらせ、月に夜をつかさどらせ、光と闇とを分けさせた。そして、神であるわたしは見て、自分が造つたすべてのものをよしとした。

19 夕となり、また朝となった。第四日である。

20 神であるわたしは言った。『水は命を持つ動く生き物を豊かに生じ、鳥は地の上、天の大空を飛べ。』
 21 神であるわたしは、海の大きいなる獣と、水に群がるすべての動く生き物とを、種類に從つて創造し、また翼のあるすべての鳥を、種類に從つて創造した。そして、神であるわたしは見て、自分が創造したすべてのものをよしとした。

22 神であるわたしはこれらを祝福して言った。『生めよ、増えよ、海の水に満ちよ。また鳥は地に増えよ。』

23 夕となり、また朝となった。第五日である。

24 神であるわたしは言った。『地は生き物を種類に從つて出せ。家畜と、這うものと、地の獣とを種

類に從つて出せ。』すると、そのようになった。

25 神であるわたしは、地の獣を種類に従い、家畜を種類に従い、また地を這うすべてのものを種類に從つて造つた。そして、神であるわたしは見て、これらすべてのものをよしとした。

26 神であるわたしは、初めからわたしとともにいたわたしの独り子に言った。『わたしたちの形に、わたしたちにかたどつて人を造ろう。』そして、そのようになった。また、神であるわたしは言った。『彼らに、海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべてのものと、地のすべての這うものを治めさせよう。』

27 神であるわたしは、自分の形に人を創造した。わたしの独り子の形に人を創造し、男と女に創造した。

28 神であるわたしは、彼らを祝福して言った。『生めよ、増えよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物を治めよ。』

29 また、神であるわたしは人に言った。『見よ、わたしは全地の面にある種を持つすべての草と、種

21 ①創世1:21
 アブ4:21
 22 ①創世1:22
 アブ4:22
 25 ①GS「イエス・キリスト」
 ②創世1:26
 ③GS「創造する」
 ④創世1:28
 26 アブ4:26
 27 ①GS「神 神会」
 28 アブ4:28
 29 ①モセ5:2

のある実を結ぶすべての木をあなたがたに与えた。これはあなたがたの食物となるであらう。

30 また地のすべての獣、空のすべての鳥、地を這うすべてのもの、すなわちわたしが命を授けるものは、食物としてすべての清い草が与えられるであらう。』そして、わたしが語ったようになった。

31 神であるわたしは、自分が造ったすべてのものを見たところ、見よ、わたしが造ったすべてのものは非常に良かった。夕となり、また朝となった。第六日である。」

第3章

(千八百三十年六月一十月)

すべてのものが地上に自然に存在するに先立って、神はそれらを霊的に創造された。神は最初の肉なるものである人を地上で創造された。女は男のふさわしい助け手である。

1 「こうして天と地と、その万象が完成した。

2 神であるわたしは、第七日にわたしの業を終えた。すべてのものを、わたしは造り終えていた。そ

して、わたしは第七日にわたしのすべての業を離れて休んだ。わたしが造ったすべてのものは仕上げられた。神であるわたしは見て、それらを良しとした。

3 神であるわたしは第七日を祝福して、これを聖別した。わたしはこの日に、神であるわたしが創造し、造った、すべてのわたしの業を離れて休んだからである。

4 さて見よ、わたしはあなたに言う。これが天地創造の由来である。主なる神であるわたしが天と地を造ったとき、

5 地にはまだ野の植物もなく、また野の草も生えていなかった。主なる神であるわたしは、わたしは語ったすべてのものを、それらが地の面に自然に存在するに先立って霊的に創造した。主なる神であるわたしは、地の面にまだ雨を降らせていなかったからである。主なる神であるわたしは、人の子らすべてを創造していたが、まだ土を耕す人はいなかった。わたしは彼らを天で創造したのである。そして、地上にも、水の中にも、空にも、まだ肉なるものはいなかった。

第3章

- 29 ① 創世1:29-30
- アプ4:29, 30
- 31 ① 創世1:31,
- 教義59:16, 20
- ② 出エ20:11,
- アプ4:31
- ① 創世2:1,
- アプ5:1
- ② GS「創造、創造する」
- 2 ① GS「安息日」
- ② 創世2:2-3,
- アプ5:2-3,
- アプ5:2-3,
- GS「安息」
- 3 ① モサ19
- ② 出エ31:14-15
- 5 ① 創世2:4-5,
- アプ5:4-5
- ② 教義29:31-34
- アプ3:23
- GS「霊の創造」
- ③ モセ6:51
- ④ GS「霊」
- ⑤ 創世2:5
- ⑥ GS「天」
- ⑦ GS「天」天の御父の霊の子供としての人間」

6 しかし、主なる神であるわたしが語ると、霧が地から立ち上つて、土の全面を潤した。

7 主なる神であるわたしは、土のちり^①で人を形造り、命の息をその鼻に吹き入れた。そこで人は生けるもの、地上における最初の肉なるもの、また最初の人となった。しかしながら、すべてのものは以前に創造されたが、それは、わたしの言葉に従つて霊的に創造され、造られたのである。

8 主なる神であるわたしは、東の方^①、エデンに一つの園を設けて、わたしが形造つた人をそこに置いた。

9 また、主なる神であるわたしは、人の目に美しいすべての木を自然に土から生えさせた。そして、人はそれを見ることができた。それもまた生けるものとなった。わたしがそれを創造したとき、それは霊のものであった。それは神であるわたしが創造したその領域に、すなわち、わたしが人の用いるように備えたすべてのものはわたしが創造したその領域にそのままあつたのである。また、人はそれが食べるに良いのも見た。また、主なる神であるわたしは、園の中央に命の木と善悪を知る木を植えた。

10 主なる神であるわたしは、一つの川がエデンから流れ出て園を潤すようにした。そして、それはそこから分かれて、四つの川となった。

11 主なる神であるわたしは、第一の川の名をピソンと呼んだ。これは、主なる神であるわたしが多くの金をつつたハビラの全地を巡るものである。

12 その地の金は良く、またそこはブドラクと、しまめのうも産した。

13 第二の川の名はギホンと呼ばれ、これはエチオピアの全地を巡るものである。

14 第三の川の名はヒデケルであつて、アツスリヤの東に流れるものである。第四の川はユフラテであつた。

15 主なる神であるわたしは、人を連れて行つてエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせた。

16 主なる神であるわたしは、その人に命じて言った。『あなたは園のどの木からでも心のままに取つて食べてよろしい。』

17 しかし、善悪を知る木からは取つて食べてはならない。それでも、あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである。し

7 ① 創世2・6
 モセ4・25、6
 アプ5・7
 ② GS「アダム」
 ③ GS「人を造り出す」
 ④ GS「エデン」
 モセ1・34
 9 8
 ① GS「命の木」
 ② 創世2・9
 17 10
 ① 創世2・10
 ② モセ7・32、
 GS「選択の自由」

かし、わたしがそれを禁じたことを覚えておきなさい。あなたはそれを食べる日に、必ず死ぬからである。』

18 また、主なる神であるわたしは、人が独りでいるのは良くないことをわたしの独り子に言った。『それゆえ、彼のためにふさわしい助け手を造らう。』

19 また、主なる神であるわたしは、野のすべての獣と、空のすべての鳥を土で形造り、アダムのところへ来ることを命じ、彼がそれらをどう呼ぶかを見た。それらも生けるものであった。神であるわたしが、命の息をそれらに吹き入れたからである。そして、アダムがすべて生き物に与える名はその名になると、わたしは命じたのである。

20 それでアダムは、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣に名を付けたが、アダムにはふさわしい助け手が見つからなかった。

21 そこで、主なる神であるわたしは、アダムを深く眠らせた。そして、彼が眠ると、わたしは彼のあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさいだ。22 主なる神であるわたしは、人から取ったあばら骨で一人の女を造り、人のところへ連れて来た。

23 すると、アダムは言った。『わたしは今や、これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉であることを知る。男から取ったものだから、これを女と呼ぼう。』

24 それで、人はその父と母を離れて、妻と結び合い、二人は一体となるのである。

25 人とその妻は、二人とも裸であったが、恥ずかし気とは思わなかった。』

第 4 章

(千八百三十年六月―十月)

サタンはどのようにして悪魔となったか。サタン、エバを誘惑する。アダムとエバは墮落し、死が世に入る。

1 主なる神であるわたしは、モーセに語って言った。「あなたがわたしの独り子の名によって命じたあのサタンは、初めからいた者である。彼はわたしの前に来て言った。『御覧ください。わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。わたしはあなたの子となりましょう。そして、わたしは全人類を贖って、一人も失われないうようにしましよ

17 ② アブ5・13

③ 創世2・17、GS「死(肉体の)」

④ 「死すべき状態」

18 ① 創世2・18、

② 創世2・18、

22 ① GS「エバ」

「女」

23 ① 創世2・23、

24 アブ5・17

24 ① 創世2・24、

教義42・22、49

アブ5・17、18、15・16

② GS「結婚」

第4章

1 ① GS「悪魔」

② 教義29・36・37

う。必ずわたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。』
 2しかし見よ、初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子は、わたしに、『父よ、あなたの御心が行われ、榮光はとこしえにあなたのものでありますように』と言った。
 3あのサタンはわたしに背いて、主なる神であるわたしが与えた、人の選択の自由を損なおうとしたので、またわたしの力を自分と与えるように求めたので、わたしは独り子の力によって彼を投げ落とさせた。
 4そして、彼はサタン、すなわち、あらゆる偽りの父である悪魔となつて、人々を欺き、惑わし、またまことに、わたしの声を聴こうとしないすべての者を自分の意のままにとりこにする者となつた。
 5さて、主なる神であるわたしが造つた野の生き物のうちで、蛇が最も狡猾であつた。
 6そこで、サタンは（すでに多くのものを引き寄せ自分に従わせていたので）蛇の心の中に思いを入れ、エバもだまそうとした。彼は神の思いを知らなかつたので、世を滅ぼそうとしたのである。

7彼は女に言った。『園のどの木からも取つて食べてはならないと、ほんとうに神が言われたのですか』（彼は蛇の口を通して語つた。）
 8女は蛇に言った。『わたしたちは園の木の実は食べることを許されています。
 9しかし、園の中央に見える木の实については、取つて食べてはならない、触れてもならない、死んではいけないから、と神は言われました。』
 10すると、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。
 11それを食べる日に、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです。』
 12女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取つて食べ、また、ともにいた夫にも与えたので、彼も食べた。
 13すると、二人の目は開け、自分たちが裸であることを知つた。そこで、彼らはいちじくの葉をつづり合わせて、前掛けとした。
 14日の涼しいころ、彼らが園の中を歩いていると、

1 ① イザ14 12-15
 2 ① モセ7 39、
 アブ3 27、
 GS「子任」
 ② GS「イエス・キリスト」
 ③ GS「神・神会・父なる神」
 ④ ルカ22 42
 ⑤ GS「栄光」
 3 ① GS「天上の会議」
 ② GS「選択の自由」
 ③ 教義7 25-27
 ④ ① 2ニフ2 18、
 教義10 25、
 GS「欺き」
 5 ①「偽り」
 ① 創世3 1、
 モサ16 3、
 アル12 4
 6 GS「エム」
 7 ① GS「エム」
 11 ① 創世3 3-6、
 モセ5 10
 12 ① 創世3 6
 ② アル12 31
 ③ GS「墮落・アダムとエバの」
 14 ① 創世2 25
 ② 創世3 8

26 さて、アダムはその妻をエバと呼んだ。彼女がすべての命ある者の母であったからである。主なる神であるわたしは、数多くいるすべての女の最初の者をこのように呼んだ。

27 主なる神であるわたしは、アダムとその妻に皮の衣を作つて着せた。

28 そして、主なる神であるわたしは、独り子に言った。「見よ、人はわたしたちの一人のようになり、善悪を知る者となった。彼は手を伸ばして、命の木からも取つて食べ、永久に生きるかもしれない。」

29 そこで、主なる神であるわたしは、彼をエデンの園から追い出して、彼自身が取り出された土を耕させることにした。

30 主なる神であるわたしが生きているように、まことにそのように、わたしの言葉が無に帰することはありません。それはわたしの口から出ると、成就しなければならぬからである。

31 そこで、わたしは人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、あらゆる方向に回る燃える剣を置いて、命の木の道を守らせた。」

32 (これらは、わたしが僕モーセに語つた言葉であり、まことにわたしの望むとおり realism である。わたしはあなたにこれを語つた。わたしがあなたに命じるまで、あなたは信じる者のほか、だれにもこれを示してはならない。アーメン。)

第 5 章

(千八百三十年六月一十月)

アダムとエバ、子供をもうける。アダム、犠牲をささげ、神に仕える。カインとアベルが生まれる。カインは背き、神よりもサタンを愛し、滅びとなる。殺人と悪事が広がる。福音は最初から宣べ伝えられる。

1 「主なる神であるわたしが彼らを追い出した後、アダムは、主なるわたしが命じたように、地を耕し、野のすべての獣を治め、額に汗してパンを食べることを始めた。彼の妻エバも彼とともに働いた。
2 アダムはその妻を知り、彼女は彼に息子、娘たちを産んだ。そして、彼らは増えて、地を満たし始めた。

3 そのときから、アダムの息子、娘たちは二人ず

26 ① モセ 1:34, 6:9
 27 ① GS 「創世 3:22」
 28 GS 「一人一子の御父のようになる可能性を持つた人間」
 29 ② GS 「知識」
 30 ③ 創世 2:9, 1ニフ 11:25, モセ 3:9
 31 GS 「命の木」
 32 ④ アル 42:4-5
 29 ① GS 「エデン」
 30 ① 列上 8:56,
 31 ① アル 42:3,
 GS 「ケルビム」

第 5 章

1 ① モセ 2:26
 2 ① 創世 5:4
 ② ② 教義 138:39
 ③ モセ 2:28,
 ④ モセ 2:28

つ地に分かれて、土地を耕し、家畜の群れを飼いはじめた。そして、彼らもまた、息子、娘たちをもうけた。

4 アダムとその妻エバは主の名を呼び、エデンの園の方向から彼らに語る主の声を聞いた。しかし、主を目にすることはなかった。彼らは主の前から締め出されていたからである。

5 主は彼らに、主なる彼らの神を礼拝し、主へのささげ物として群れの初子をささげるようにと戒めを与えた。アダムは主の戒めに従順であった。

6 多くの日の後、主の天使がアダムに現れて言った。『あなたはなぜ主に犠牲をささげるのか。』そこで、アダムは彼に答えた。『わたしには分かりません。ただ、主がわたしに命じられたのです。』

7 すると、天使は語って言った。『これは、御父の、恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひなごである。』

8 したがって、あなたが行うすべてのことを御子の御名によって行いなさい。また、悔い改めて、いつまでも御子の御名によって神に呼び求めなさい。』

9 その日、御父と御子のことを記する聖霊がアダムに降り、そして言った。『わたしは初めから、また今から後とこしえに、父の独り子である。あなたは今堕落したので、贖いを受けることができる。全人類、まことにそれを望むすべての者も同様である。』

10 その日、アダムは神をたたえ、満たされて、地のすべての氏族について預言し始めて言った。『神の御名がたたえられるように。わたしの背きのゆえに、わたしの目は開かれた。わたしはこの世で喜びを受け、再び肉体にあつて神にまみえるであろう。』

11 彼の妻エバは、これらすべてのことを聞き、喜びながら言った。『わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。』

12 アダムとエバは神の名をたたえ、息子、娘たちにすべてのことを知らせた。

13 すると、サタンが彼らの中にやって来て、『わた

4 ① GS「エデン」
 ② アル42・9
 5 ① GS「礼拝」
 ② 出エ13・17、
 民サ2・3、
 モサ2・17、
 ③ GS「長子、初子」
 6 ① GS「従順、従う」
 ② GS「天使」
 ③ GS「犠牲」
 7 ① モセ1・6、32、
 ② GS「恵み」
 ③ GS「血」
 ④ アル34・10-15、
 ⑤ GS「イエス」
 ⑥ キリスト・キリストの
 子型と象徴」
 8 ① 2・7・31・21
 ② モセ6・57、
 ③ GS「祈り」
 ④ GS「聖霊」
 9 ① GS「イエス」
 ② GS「独り子」
 ③ GS「死（霊の）」
 「堕落（アダムとエバの）」
 ④ モサ27・24・26、
 ⑤ 教義93・38、
 ⑥ 簡条1・3、
 ⑦ GS「贖い、贖う」
 ⑧ GS「贖いの計画」
 ⑨ GS「再び生まれる」
 ⑩ GS「預言」
 ⑪ GS「喜び」
 ⑫ ヨブ19・26、
 ⑬ 2・9・4
 ⑭ GS「エバ」
 ⑮ 2・7・22-23
 ⑯ 申命4・9
 ⑰ GS「悪魔」

しもまた、神の子だ」と言い、「そのことを信じてはならない」と彼らに命じて言った。そこで、彼らはそれを信じることなく、神よりもサタンを愛した。人々はそのときから、肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となり始めた。

14 主なる神は至る所で聖霊によつて人々に呼びかけ、悔い改めるように命じた。

15 また、『御子を信じて自分の罪を悔い改めるすべての者は救われる。しかし、信じてないで悔い改めないすべての者は、罰の定めを受ける。御言葉は堅い定めとして神の口から出たので、それらは成就しなければならぬ』と告げた。

16 アダムとその妻エバは、神に呼び求めることをやめなかった。また、アダムはその妻エバを知り、彼女は身ごもつてカインを生み、『わたしは主から男子を得ました。ですから、この子は神の御言葉を拒まないでしよう』と言った。しかし見よ、カインは耳を傾けずに言った。『わたしが知るべき主とはだれですか。』

17 彼女はまた身ごもり、弟アベルを生んだ。アベルは主の声に聞き従った。アベルは羊を飼う者

となり、カインは土を耕す者となった。

18 カインは神よりもサタンを愛した。サタンは彼に命じて、『主にささげ物をせよ』と言った。

19 時がたつて、カインは地の産物を持って来て、主へのささげ物とした。

20 アベルもまた、自分の羊の群れの初子の中から肥えたものを持って来た。主はアベルとそのささげ物に目を留めた。

21 しかし、主はカインとそのささげ物には目を留めなかった。サタンはこれを知つて喜んだ。カインは大いに憤つて、顔を伏せた。

22 そこで、主はカインに言った。『なぜ憤るのか。なぜ顔を伏せるのか。』

23 あなたは正しいことをしていれば、受け入れられる。もし正しいことをしていなければ、罪が門口で待ち伏せており、サタンはあなたを得ることを望んでいる。あなたがわたしの戒めに聞き従わなければ、わたしはあなたを引き渡し、彼の望みどおりになる。そして、あなたは彼を治めるであろう。

24 これから先、あなたは彼が言う偽りの父となる。あなたは滅びと呼ばれる。あなたもまた世に

13 GS「不信仰」
 ② GS「モセ6:15」
 ③ GS「生まれながらの」
 ④ GS「現世的」
 14 ①ヨハ14:16-18、26
 ② GS「信じる」
 ③ GS「救い」
 ④ 教義42:60、
 15 GS「罰の定め」
 16 GS「創世4:1-2、
 17 GS「カイン」
 18 GS「アベル」
 ①ヘブ11:4
 ② 教義10:20-21
 19 ① 教義132:8-11
 ② GS「犠牲」
 20 GS「犠牲」
 21 ① 創世4:3-7
 ② 創世4:7、
 22 教義52:15、97:8
 24 ① GS「滅びの王」

先立^{さきだ}つて存在^{そんざい}していた。

25 そして将来、「これらの忌まわしい行いはカインから出た。彼は神から出たさらに大いなる勧告を拒んだからである」と言われるであろう。これが、あなたが悔い改めなければ、わたしがあなたに与えるのろいである。』

26 カインは憤^{いきどお}つて、もはや決して主の声にも、主の顔を聖く歩んだ弟アベルの声にも耳を傾けなかつた。

27 アダムとその妻は、カインとその兄弟たちのゆえに主の前に嘆き悲しんだ。

28 さて、カインはその兄弟の娘の一人を妻とし、彼らは神よりもサタンを愛した。

29 サタンはカインに言った。『おまえののどにかけてわたしに誓え。それを話せば、おまえは死ぬのだ。また、おまえの兄弟たちに、その頭と生ける神とにかけて、それを話さない^{はな}と誓わせよ。それを話せば、おまえの兄弟たちは必ず死ぬだろう。おまえの父に知られないためにこのようにせよ。そうすれば、今日、弟アベルをおまえの手に渡そう。』

30 そして、サタンはカインに、彼の命じるとおりに

行^{おこな}うことを誓^{ちか}つた。これらのことはすべてひそかに行われた。

31 カインは言った。『実に、わたしはこの大いなる秘密の主マハンであり、人を殺して利を得ることができる。』それで、カインは大マハンと呼ばれ、自分の悪事を誇つた。

32 カインは野に行き、弟アベルと語つた。そして、野にいたとき、カインは弟アベルを襲つて殺した。

33 そして、カインは自分がしたことを誇つて言った。『わたしは自由だ。弟の羊の群れは必ずわたしの手に入る。』

34 主はカインに言った。『弟アベルは、どこにいるのか。』カインは答えた。『知りません。わたしは弟の番人でしょうか。』

35 主は言った。『あなたは何をしたのか。あなたの弟の血の音が土の中からわたしに叫んでいる。』

36 今あなたはのろわれて、この土地を離れなければならぬ。この土地が口を開けて、あなたの手から弟の血を受けたからである。

37 あなたが土を耕しても、土はもはやあなたのため

25 ①ヒラ6・26
①モセ5・13

31 ①「殺人」という

「言葉の語根には、「心」

「破壊者」に立った者

33 ①「高慢」

「物欲」

34 ①創世4・9

めに実を結ばない。あなたは、地上をさまよい歩く放浪者となるであろう。』

38すると、カインは主に言った。『サタンが、弟の羊の群れのゆえにわたしを誘惑したのです。また、わたしも憤っていました。あなたが弟のささげ物を受け入れて、わたしのものを受け入れてくださらなかったからです。わたしの罰は重くて負い切れません。』

39あなたは今日、わたしを御前から追い出されました。わたしは御顔から隠されて、地上をさまよい歩く放浪者とならなければなりません。わたしを見つめる者は、わたしが罪悪を犯したので、わたしを殺すでしょう。これらのことは主から隠されていません。』

40そこで、主なるわたしは彼に言った。『だれでもあなたを殺す者は、七倍の復讐を受けるであろう。』そして、主なるわたしは、カインを見つめる者がだれも彼を殺すことのないように、彼にするしを付けた。

41カインは主の前から締め出され、その妻および多くの兄弟たちとともに、エデンの東、ノドの地

に住んだ。

42カインはその妻を知った。彼女は身ごもってエノクを産んだ。彼はまた、多くの息子、娘たちをもうけた。カインは町を建て、その町を息子の名にちなんでエノクと名付けた。

43エノクには、イラデと、ほかの息子、娘たちが生まれた。イラデは、メホヤエルと、ほかの息子、娘たちをもうけた。メホヤエルは、メトサエルと、ほかの息子、娘たちをもうけた。メトサエルはレメクをもうけた。

44レメクは二人の妻をめとった。一人の名はアダといい、もう一人の名はチラといった。

45アダはヤバルを産んだ。彼は天幕に住む者の先祖であり、彼らは家畜を飼う者であった。その弟の名はユバルといい、堅琴と笛を奏するすべての者の先祖となった。

46チラもまた、トバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄の工作をするすべての者の教師であった。トバル・カインの妹はナアマといった。

47レメクはその妻たち、アダとチラに言った。『わたしの声を聞け、レメクの妻たちよ、わたしの言

38 37 ① 創世4:11-12
① GS「負欲、むさぼり」

40 ① 創世4:15

41 ① モセ6:49

42 ① カインの家系にエノクという名の人があり、またその名によって呼ばれた町があった。これをセツの家系のエノクや、エノクの町」と呼ばれた彼の町、シオンと混同してはならない

葉に耳を傾けよ。わたしは受けた傷のために人を殺し、受けた打ち傷のために若者を殺した。

48 カインのための復讐が七倍ならば、レメクのための復讐は七十七倍であろう。』

49 レメクはカインに倣ってサタンと契約を結び、それにより彼は、サタンによってカインに授けられた大なる秘密の主、大マハンとなった。ところが、エノクの息子イラデは彼らの秘密を知り、アダムの子らにそれを暴き始めた。

50 そこで、レメクは怒って彼を殺した。利を得るために弟アベルを殺したカインのようではなく、彼は誓いのために殺したのである。

51 カインの時代から秘密結社があり、彼らの業は闇の中にあつて、彼らは自分の同胞を知っていた。

52 そこで、主はレメクとその家族、ならびにサタンと契約を結んだすべての者をのろつた。彼らが神の戒めを守らなかつたからである。神は彼らが戒めを守らないことを不快に思い、彼らを教え導くことをしなかつた。彼らの業は忌まわしいものであつて、すべての人の子らの中に広がり始めた。それは人の息子たちの中にあつた。

53 人の娘たちの中では、これらのことは語られなかつた。レメクがその妻たちにその秘密を語り、彼女たちが彼に背いてこれらのことを広く告げ知らせ、同情を寄せなかつたからである。

54 そのためにレメクはさげすまれ、追い出され、そして死ぬことを恐れて人の子らの中に出て来なかつた。

55 このように、闇の業はすべての人の子らの中に広がり始めた。

56 神はひどいのろいをもつて地をのろい、悪人を、また神が造つたすべての人の子らを怒つた。

57 彼らが神の声に聞き従おうとせず、またその独り子、すなわち、時の中間に来ると神が宣言した者、創世の前に備えられた者を信じようとしなかつたからである。

58 このように、福音は最初から宣べ伝えられ、神の前から遣わされた聖なる天使たちによって、神自身の声によって、また聖霊の賜物によって告げ知らされた。

59 このようにして、すべてのことが聖なる儀式によってアダムに確かにされ、福音が宣べ伝えられ、世

48

①レメクは、サタンがカインのためにしたよりもっと多くのことを自分のためにしてくるのだらうと誇つた。彼がどのように考えた理由が、第49節に示されている。

50

①GS「誓い」

①GS「秘密結社」

①GS「暗闇(霊的な)」

①GS「邪悪」

①GS「イエス・キリスト」

①GS「福音」

②アル12・28-30、モ7・25、29-31、

③GS「聖霊の賜物」

の終わりまで福音が世にあるようにという定めが出されたのである。このとおりであった。アーメン。」

第 6 章

(千八百三十年十一月―十二月)

アダムの子孫、覚えの書を記す。アダムの義になつた子孫、悔い改めを宣べ伝える。神はエノクに御自身を現される。エノク、福音を宣べ伝える。救いの計画がアダムに明らかにされる。アダム、バプテスマと神権を受ける。

① アダムは神の声に聞き従い、息子たちに悔い改めるように呼びかけた。
 2 アダムはまたその妻を知り、彼女は男の子を産んだ。そして、アダムはその子をセツと名付けた。アダムは神の名をたたえて言った。「神は、カインが殺したアベルの代わりに、一人の子をわたしに授けてくださった。」
 3 神はセツに御自身を現され、セツは背くことなく、兄アベルのように受け入れられる犠牲をささげた。また、セツにも男の子が生まれ、彼はその子

をエノスと名付けた。
 4 そのとき、これらの人は主の名を呼び始め、主は彼らを祝福された。
 5 また、覚えの書が記され、アダムの言葉で記録された。神に呼び求めたすべての者は、靈感の霊によつて書くことを許された。
 6 そして、彼らによつてその子供たちは読み書きを教えられ、その言葉は清らかで汚れないものであつた。
 7 さて、初めにあつたこの神権は、世の終わりにもあるであらう。
 8 この預言を、アダムは聖霊に動かされるままに語つた。そして、神の子たちについて一つの系図が記された。これはアダムの歴代の書で、次のおりであつた。すなわち、神は人を創造された日に、神にかたどつて人を造られた。
 9 神は彼らを、御自分の体の形に、男と女に創造された。彼らが創造されて、神の足台の上の地で生けるものとなつた日に、神は彼らを祝福して、彼らをアダムと名付けられた。
 10 アダムは百三十歳になつて、自分にかたどり、

第 6 章

1 ① GS「アダム」
 2 ① 創世 4・25、
 GS「セツ」
 3 ① GS「犠牲」
 4 ① 創世 4・26、
 GS「折り」
 5 ① アブ 1・28、
 GS「覚えの書」
 6 ① GS「靈感」
 7 ① GS「神権」
 8 ① 2 ペテ 1・21
 GS「神の息子、娘」
 9 ① GS「一人」
 GS「系図」
 ② 創世 1・26―28、
 モセ 2・26―29、
 アブ 4・26―31
 ③ アブ 2・7
 ④ GS「人を(霊を持つ存在としての)」
 ⑤ モセ 1・34、4・26
 ⑥ 教義 107・41―56

自分の形のような男の子をもうけ、その子をセツと名付けた。

11 アダムがセツをもうけた後、生きた年は八百年であつて、彼は多くの息子、娘たちをもうけた。

12 アダムの生きた年は合わせて九百三十歳であつた。そして、彼は死んだ。

13 セツは百五歳になつて、エノスをもうけた。セツは一生の間預言し、息子エノスに主の道を教えたので、エノスもまた預言した。

14 セツはエノスをもうけた後、八百七年生きて、多くの息子、娘たちをもうけた。

15 人の子らは地の全面に非常に大勢いた。その時代に、サタンは人々の中で大きな力を持ち、彼らの心の中で荒れ狂つた。そして、そのときから戦争と流血が起こつた。また、秘密の業のために、人は

権力を求めて、自分の兄弟に手を下して殺した。

16 セツの年は合わせて九百十二歳であつた。そして、彼は死んだ。

17 エノスは九十歳になつて、カインをもうけた。エノスと神の民の残りの者は、シュロンと呼ばれた地を出て、彼がカインと名付けた自分の息

子にちなんと呼んだ約束の地に住んだ。

18 エノスはカインをもうけた後、八百十五年生きて、多くの息子、娘たちをもうけた。エノスの年は合わせて九百五歳であつた。そして、彼は死んだ。

19 カインは七十歳になつて、マハラレルをもうけた。カインはマハラレルをもうけた後、八百四十年生きて、息子、娘たちをもうけた。カインの年は合わせて九百十歳であつた。そして、彼は死んだ。

20 マハラレルは六十五歳になつて、ヤレドをもうけた。マハラレルはヤレドをもうけた後、八百三十年生きて、息子、娘たちをもうけた。マハラレルの年は合わせて八百九十五歳であつた。そして、彼は死んだ。

21 ヤレドは百六十二歳になつて、エノクをもうけた。ヤレドはエノクをもうけた後、八百年生きて、息子、娘たちをもうけた。ヤレドはエノクに神の道をすべて教えた。

22 これがアダムの子孫の系図である。アダムは神の子であり、神は自ら彼と語られた。

23 彼らは義を説く者であつて、語り、預言し、ど

10 ②創世5:3、
15 ①教義107:42、43、138、40
17 ②GS「秘密結社」
21 ①創世5:18、24、
モセ7:69、8:1、2、
23 22 GS「エノク」
②①GS「預言者」
GS「預言」

①カミ

こにいる人でもすべての人に悔い改めるように呼びかけた。そして、人の子らに信仰が教えられた。24 さて、ヤレドの年は合わせて九百六十二歳であった。そして、彼は死んだ。

25 エノクは六十五歳になって、メトセラをもうけた。

26 そして、エノクは地の上を行き、民の中を旅をした。彼が旅をしていると、神の御霊が天から降り、彼のうえにとどまった。

27 そして、彼は天から声が告げられるのを聞いた。「わたしの子エノクよ、この民に預言し、彼らに言いなさい。『悔い改めなさい。主は次のように言われるからです。』」わたしはこの民のことを怒っており、わたしの激しい怒りは彼らに向かって燃えている。彼らの心はかたくなになり、その耳は聞こえにくく、その目は遠くを見ることができな

28 わたしが彼らを造つた日以来、多くの世代にわたって、彼らは迷い、わたしを否定し、闇の中で自分の知恵を求め、彼らの忌まわしい行いの中で殺人を企て、わたしが彼らの先祖アダムに与えた戒めを守ってこなかった。

29 それゆえ、彼らは偽りの誓いを立て、その誓いによつて自らに死を招いてきた。彼らが悔い改めなければ、わたしは彼らのために地獄を用意している。

30 これは、わたしが世の初めに、わたし自身の口から、しかも世の初めから送り出してきた定めである。そして、それが将来世の中に送り出されるように、あなたの先祖であるわたしの僕たちの口を通して、わたしはそれを地の果てまで布告してきたのである」と。

31 エノクはこれらの御言葉を聞いたとき、主の前に伏し、主の前に語つて言つた。「わたしがあなたの目になつたのはなぜでしょうか。わたしは若者にすぎず、すべての人はわたしを憎みます。わたしは口の重い者だからです。どうしてわたしはあなたの僕なのでしょうか。」

32 主はエノクに言われた。「行つて、わたしがあなたに命じたように行いなさい。そうすれば、あなたを刺し貫く者はだれもないであろう。あなたの口を開きなさい。そうすれば、それは満たされるであろう。わたしはあなたに語る力を与えよう。す

23 GS 「悔い改め」
 24 GS 「信仰」
 25 GS 「メトセラ」
 26 マク 13:15、
 27 マク 9:31
 28 モサ 26:28
 29 エレ 1:6-9
 30 エレ 4:10-16、
 31 エレ 24:5-6、
 32 エレ 24:5-6、
 60 2

べての肉なるものはわたしの手の内にあるからである。そして、わたしは自分がよいと思うままに行おう。

33 この民に、『あなたがたは今日、あなたがたを造られた主なる神に仕えることを選びなさい』と言いなさい。

34 見よ、わたしの御霊^{ミタマ}があなたのうえにあるので、あなたのすべての言葉を、わたしは正しいとする。

山々はあなたの前から逃げ去り、川はその流れを変えらるであろう。あなたはわたしにつながっていない。そうすれば、わたしはあなたとつながっていない。それゆえ、わたしとともに歩みなさい。」

35 主はエノクに語って言われた。「あなたの目に泥を塗り、それを洗いなさい。そうすれば、あなたは見るであろう。」そこで、彼はそうした。

36 そして、彼は神が造られた霊たちを見た。彼はまた肉体の目に見えないものを見た。それ以来、「主はその民のために、一人の聖見者を立てられた」という言葉がその地に広まった。

37 さて、エノクはその地の人々の中に出て行き、もろもろの丘と高い所に立つて、大声で叫び、彼らの

行いを責める証を述べた。すると、すべての人が彼に腹を立てた。

38 彼らは彼の言葉を聞くために高い所に出て来て、天幕を守る者たちに言った。「あなたがたはここにどきどきして、天幕を守っていない。その間に、我々はあそこへ行つて聖見者を見てくる。彼は預言をする。この地が変わったことがある。野生の男が我々の中にやって来たのだ。」

39 さて、彼の言葉を聞いたとき、彼に手を出す者はだれ一人いなかった。彼の言葉を聞いたすべての者に、恐れが及んだためである。彼が神とともに歩んだからである。

40 彼のもとに、その名をマヒヤという一人の男がやって来て言った。「あなたはだれで、どこから来たのか、はつきりと言ってください。」

41 そこで、彼は彼らに言った。「先祖の地であり、今日まで義の地であるカイナン^{カイン}の地からやって来ました。わたしの父はわたしに神の道をすべて教えてくれました。」

42 そして、カイナン^{カイン}の地から東の海沿いに旅をしていたとき、わたしは示現を見ました。まことに、天

34 33 ① GS「選択の自由」
① マタ 17:20
② モセ 7:13
③ 創世 5:24
モセ 7:69
GS「歩む(神とともに)」

36 ① GS「霊の創造」
モセ 1:11
GS「聖見者」

37 ① 1ニフ 16:1-3

を見ました。そして、主はわたしと語り、わたしに命を下されました。この理由で、すなわちその命に従うために、わたしはこれらの言葉を語っているのです。」

43 エノクはその話を続けて言った。「わたしと語られた主は、天の神です。わたしは神であり、またあなたがたの神です。あなたがたはわたし兄弟です。どうしてあなたがたは自分で自分に勧めをして、天の神を否定するのですか。」

44 神は天を造られ、地は神の足台であり、地の基は神のものです。まことに、神はそれを据えられ、地の面に大勢の人をもたらされました。

45 死はわたしたちの先祖に及びました。それでも、わたしたちは彼らを知っており、否定することもできません。まことに、わたしたちはすべての最初の人、アダムさえも知っています。

46 わたしたちは、神の指によって示された手本に従って、わたしたちの中で覚えの書を記してきたからです。それはわたしたちの言葉で述べられています。」

47 エノクが神の言葉を語ると、民はおののき、彼

の前に立っていることができなかった。

48 エノクは彼らに言った。「アダムが墮落したので、わたしたちは存在しています。そして、アダムの墮落によって死が生じ、わたしたちは不幸と災いを受ける者とされているのです。」

49 まことに、サタンは人の子らの中にやって来て、彼を拜むように誘惑します。そして、人々は肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となって、神の御前から締め出されています。

50 しかし、神はわたしたちの先祖に、すべての人が悔い改めなければならぬことをお知らせになりました。

51 神は御自身の声によって、わたしたちの先祖アダムに呼びかけて言われました。「わたしは神である。わたしは世界を造り、また人々を、彼らが肉体にある前に造った。」

52 神はまた彼に言われました。「あなたがわたしに心を向け、わたしの声を聴き、そして信じ、あなたのすべての背きを悔い改め、まことに水の中で、恵みと真理に満ちている独り子、すなわちイエス・キリストの名によって、すなわちその名によつ

43 ① 箴言 1:24 - 33

② 教義 56:14 - 15

③ 申命 10:14

④ アブ 2:7

48 46 ① GS 「覚えの書」

② GS 「墮落(アダムとエバの)」

49 ① GS 「死、肉体の」

② GS 「誘惑」

③ モサ 16:3 - 4

④ モセ 5:13

51 ① GS 「肉欲」

② GS 「死(霊の)」

③ GS 「人」

④ GS 「死(霊の)」

⑤ GS 「死(霊の)」

⑥ GS 「死(霊の)」

⑦ GS 「死(霊の)」

⑧ GS 「死(霊の)」

⑨ GS 「死(霊の)」

⑩ GS 「死(霊の)」

⑪ GS 「死(霊の)」

⑫ GS 「死(霊の)」

⑬ GS 「死(霊の)」

⑭ GS 「死(霊の)」

て人の子らに救いが及ぶ、天下に与えられる唯一の名によつてバプテスマを受けるならば、あなたは聖霊の賜物を受けるであろう。すべてのものをその名によつて求めれば、何でも求めるものはあなたに与えられるであろう。』

53 わたしたちの先祖アダムは、主に語つて、『人が悔い改めて水の中バプテスマを受けなければならぬのは、なぜでしょうか』と尋ねました。すると、主はアダムに、『見よ、わたしはエデンの園でのあなたの背きを赦した』と言われました。』

54 このことから、『神の御子は最初のとがを贖われ、それによつて両親の罪がその子供たちの頭に帰することはあり得ない。彼らは世の初めから罪がない』という言葉が人々の間に広まりました。』

55 主はアダムに語つて言われました。『あなたの子供たちは罪のうちに宿されるので、まことに彼らが成長し始めると、彼らの心の中に罪が宿る。そして、彼らは善を尊ぶことを知るために、苦さを味わうのである。』

56 そして、善悪を知ることが彼らに許される。それゆえ、彼らは自ら選択し行動する者である。そ

こで、わたしはあなたに別の律法と戒めを与えた。

57 それゆえ、あなたの子供たちに次のことを教えなさい。すなわち、どこにいる人でもすべての人が、悔い改めてなければならぬ。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことはできない。清くない者はそこに住むことができない、すなわち、神の前に住むことができないからである。アダムの手紙で、聖なる人とは神の名である。また、神のひとりの子の名は、人の子、すなわちイエス・キリストであり、時の中間に来る義になつた裁き主である。』

58 さて、わたしはあなたに戒めを与える。あなたの子供たちに次のことを率直に教えなさい。すなわち、

59 背きによつて墮落が生じ、その墮落が死をもたらす。あなたがたは水と血と、わたしが生けるものによつてこの世に生まれ、ちりから生けるものとなつたので、まことにあなたがたは、水と御霊によつて再び天の王国に生まれ、血によつて、すなわちわたしのひとり子の血によつて清くされなければならぬ。それは、あなたがたがすべての罪から聖められ、この世において永遠の命の言葉を享受し、

52 GS「救い」

24 使徒4:12、

2ニフ31:21

5 3ニフ11:26

GS「バプテスマ」

1 GS「救し」

1 GS「イエス・キリスト」

55 GS「贖罪」

3 モサ3:16

2 GS「罪」

29 教義29:39、

1 GS「逆境」

2ニフ2:26-27

ヒラ14:29-30、

GS「選択の自由」

1 1ニフ6:9-10

GS「悔い改め」

2 1ニフ10:21、

GS「清いものと清くないもの」

3 詩篇24:3-4、

1ニフ15:33-36

モル7:7、

教義76:50-62

4 モセ7:35、

GS「聖なる人」

5 GS「人の子」

6 GS「イエス・キリスト」

「正義」

59 58 GS「子供」

1 1ヨハ5:8

2 創世2:7、

モセ4:25、

アプ5:7

3 GS「バプテスマ」

4 GS「再び生まれる」

ヨハ6:68

2ニフ4:15-16

アル32:28

来るべき世において永遠の命、すなわち不死不滅の栄光を享受するためである。

60それは、あなたがたが水によって戒めを守り、御霊によって義とされ、血によって聖められるからである。

61それゆえ、天の記録、慰め主、不死不滅の栄光の平和なること、すべてのものの真理、すべてのものを生かし活気づけるもの、すべてのことを知っており、知恵と憐れみと真理と公正と公平によって一切の権威を持つものが授けられて、あなたがたの内にとどまる。

62さて見よ、わたしはあなたに言う。これが、時の中間に来るわたしの独り子の血によってすべての人に与えられる救いの計画である。

63見よ、すべてのものにはそれに似たものがある。すべてのものは、現世にかかわるものも霊にかかわるものも、わたしのことを証するために創造され、造られている。すなわち、上の天にあるもの、地の上にあるもの、地の中にあるもの、地の下にあるもの、上のものも下のものも、すべてのものがわたしのことを証するのである。』

64このように主がわたしたちの先祖アダムと語られたとき、アダムは主に叫び求めました。すると、彼は主の御霊に連れ去られ、水の中に運ばれ、水に沈められ、そして水から連れ出されました。

65このようにして、彼はバプテスマを受け、神の御霊が彼に降られました。このようにして、彼は御霊によって生まれ、内なる人において生かされた者となったのです。

66そして、彼は天からの声が告げられるのを聞きました。『あなたは火と聖霊によってバプテスマを受けた。これは今から後とこしえに、父と子の証である。』

67あなたは、永遠から永遠にわたつて、日の初めもなく年の終わりもない者の位に従う者である。

68見よ、あなたはわたしにあつて一つであり、神の子となることができるのである。アーメン。』

第 7 章

(千八百三十年十二月)

エノクは教え、民を導き、山々を動かす。シオンの町

60 57 GS「日の栄え」
① モロ 8・25
② GS「義認 義とされる」

61 ① GS「血」
② GS「聖め」
③ GS「聖霊」

62 61 GS「独り子」
① GS「贖いの計画」

63 ① アル 30・44、
② アル 30・44、
③ アル 30・44、
④ アル 30・44、
⑤ アル 30・44、
⑥ アル 30・44、
⑦ アル 30・44、
⑧ アル 30・44、
⑨ アル 30・44、
⑩ アル 30・44、
⑪ アル 30・44、
⑫ アル 30・44、
⑬ アル 30・44、
⑭ アル 30・44、
⑮ アル 30・44、
⑯ アル 30・44、
⑰ アル 30・44、
⑱ アル 30・44、
⑲ アル 30・44、
⑳ アル 30・44、
㉑ アル 30・44、
㉒ アル 30・44、
㉓ アル 30・44、
㉔ アル 30・44、
㉕ アル 30・44、
㉖ アル 30・44、
㉗ アル 30・44、
㉘ アル 30・44、
㉙ アル 30・44、
㉚ アル 30・44、
㉛ アル 30・44、
㉜ アル 30・44、
㉝ アル 30・44、
㉞ アル 30・44、
㉟ アル 30・44、
㊱ アル 30・44、
㊲ アル 30・44、
㊳ アル 30・44、
㊴ アル 30・44、
㊵ アル 30・44、
㊶ アル 30・44、
㊷ アル 30・44、
㊸ アル 30・44、
㊹ アル 30・44、
㊺ アル 30・44、
㊻ アル 30・44、
㊼ アル 30・44、
㊽ アル 30・44、
㊾ アル 30・44、
㊿ アル 30・44、

64 ① GS「バプテスマ」
② GS「バプテスマ」
③ GS「バプテスマ」
④ GS「バプテスマ」
⑤ GS「バプテスマ」
⑥ GS「バプテスマ」
⑦ GS「バプテスマ」
⑧ GS「バプテスマ」
⑨ GS「バプテスマ」
⑩ GS「バプテスマ」
⑪ GS「バプテスマ」
⑫ GS「バプテスマ」
⑬ GS「バプテスマ」
⑭ GS「バプテスマ」
⑮ GS「バプテスマ」
⑯ GS「バプテスマ」
⑰ GS「バプテスマ」
⑱ GS「バプテスマ」
⑲ GS「バプテスマ」
⑳ GS「バプテスマ」
㉑ GS「バプテスマ」
㉒ GS「バプテスマ」
㉓ GS「バプテスマ」
㉔ GS「バプテスマ」
㉕ GS「バプテスマ」
㉖ GS「バプテスマ」
㉗ GS「バプテスマ」
㉘ GS「バプテスマ」
㉙ GS「バプテスマ」
㉚ GS「バプテスマ」
㉛ GS「バプテスマ」
㉜ GS「バプテスマ」
㉝ GS「バプテスマ」
㉞ GS「バプテスマ」
㉟ GS「バプテスマ」
㊱ GS「バプテスマ」
㊲ GS「バプテスマ」
㊳ GS「バプテスマ」
㊴ GS「バプテスマ」
㊵ GS「バプテスマ」
㊶ GS「バプテスマ」
㊷ GS「バプテスマ」
㊸ GS「バプテスマ」
㊹ GS「バプテスマ」
㊺ GS「バプテスマ」
㊻ GS「バプテスマ」
㊼ GS「バプテスマ」
㊽ GS「バプテスマ」
㊾ GS「バプテスマ」
㊿ GS「バプテスマ」

65 ① GS「再び生まれる」
② モサ 27・25、
③ アル 5・12、15、
④ アル 5・12、15、
⑤ アル 5・12、15、
⑥ アル 5・12、15、
⑦ アル 5・12、15、
⑧ アル 5・12、15、
⑨ アル 5・12、15、
⑩ アル 5・12、15、
⑪ アル 5・12、15、
⑫ アル 5・12、15、
⑬ アル 5・12、15、
⑭ アル 5・12、15、
⑮ アル 5・12、15、
⑯ アル 5・12、15、
⑰ アル 5・12、15、
⑱ アル 5・12、15、
⑲ アル 5・12、15、
⑳ アル 5・12、15、
㉑ アル 5・12、15、
㉒ アル 5・12、15、
㉓ アル 5・12、15、
㉔ アル 5・12、15、
㉕ アル 5・12、15、
㉖ アル 5・12、15、
㉗ アル 5・12、15、
㉘ アル 5・12、15、
㉙ アル 5・12、15、
㉚ アル 5・12、15、
㉛ アル 5・12、15、
㉜ アル 5・12、15、
㉝ アル 5・12、15、
㉞ アル 5・12、15、
㉟ アル 5・12、15、
㊱ アル 5・12、15、
㊲ アル 5・12、15、
㊳ アル 5・12、15、
㊴ アル 5・12、15、
㊵ アル 5・12、15、
㊶ アル 5・12、15、
㊷ アル 5・12、15、
㊸ アル 5・12、15、
㊹ アル 5・12、15、
㊺ アル 5・12、15、
㊻ アル 5・12、15、
㊼ アル 5・12、15、
㊽ アル 5・12、15、
㊾ アル 5・12、15、
㊿ アル 5・12、15、

66 ① 教義 19・31、
② GS「聖霊の賜物」
③ ニコ 28・11、
④ ニコ 28・11、
⑤ ニコ 28・11、
⑥ ニコ 28・11、
⑦ ニコ 28・11、
⑧ ニコ 28・11、
⑨ ニコ 28・11、
⑩ ニコ 28・11、
⑪ ニコ 28・11、
⑫ ニコ 28・11、
⑬ ニコ 28・11、
⑭ ニコ 28・11、
⑮ ニコ 28・11、
⑯ ニコ 28・11、
⑰ ニコ 28・11、
⑱ ニコ 28・11、
⑲ ニコ 28・11、
⑳ ニコ 28・11、
㉑ ニコ 28・11、
㉒ ニコ 28・11、
㉓ ニコ 28・11、
㉔ ニコ 28・11、
㉕ ニコ 28・11、
㉖ ニコ 28・11、
㉗ ニコ 28・11、
㉘ ニコ 28・11、
㉙ ニコ 28・11、
㉚ ニコ 28・11、
㉛ ニコ 28・11、
㉜ ニコ 28・11、
㉝ ニコ 28・11、
㉞ ニコ 28・11、
㉟ ニコ 28・11、
㊱ ニコ 28・11、
㊲ ニコ 28・11、
㊳ ニコ 28・11、
㊴ ニコ 28・11、
㊵ ニコ 28・11、
㊶ ニコ 28・11、
㊷ ニコ 28・11、
㊸ ニコ 28・11、
㊹ ニコ 28・11、
㊺ ニコ 28・11、
㊻ ニコ 28・11、
㊼ ニコ 28・11、
㊽ ニコ 28・11、
㊾ ニコ 28・11、
㊿ ニコ 28・11、

67 ① GS「メルキセデク
神権」
② 1ヨハ 3・1-3、
③ 教義 35・2

68 ① ヨハ 1・12、
② ヨハ 1・12、
③ 教義 34・3、
④ GS「神の息子、娘」

が設立される。エノク、人の子の来臨とその贖いの犠牲と聖徒たちの復活を先見する。また、回復と集合と再臨とシオンの帰還も先見する。

1 また、エノクはその話を続けて言った。「まことに、わたしたちの先祖アダムはこれらのことを教えましたが、すると、多くの者は信じて神の子となりましたが、信じないで罪の中に滅びた者も大勢いました。彼らは今、苦しみの中で恐れながら、火のような神の激しい怒りが自分たちに注がれるのを待っています。」

2 そのときから、エノクは預言し始めて、民に言った。「わたしが旅の途中に、マフヤという所に立って主に叫び求めると、天から、『あなたは引き返して、シメオンの山に登りなさい』という御声がありました。」

3 そこで、わたしは引き返して、その山に登りました。そして、その山に立つと、わたしは天が開くのを見て、栄光に包まれました。

4 わたしは主にまみえました。主はわたしの前に立ち、顔と顔を合わせて、人が互いに語り合うよう

にわたしと語られました。そして、主はわたしに言われました。「見なさい。そうすれば、わたしはあなたにこの世を多くの世代にわたって見せよう。」

5 それから、わたしはシユムの谷に、まことに天幕に住む多くの人を見ました。それはシユムの民でした。

6 主は再びわたしに、『見なさい』と言われました。そこで、わたしが北の方を眺めると、天幕に住むカナンの民が見えました。

7 主はわたしに、『預言しなさい』と言われました。そこで、わたしは預言して言いました。「見よ、大勢のカナンの民がシユムの民に対して陣立をして出て行き、彼らを殺して、ことごとく滅ぼすであろう。そして、カナンの民はその地で分かれて、その地は実を結ばない不毛の所となり、カナンの民のほかにいかなる民もそこに住むことはない。」

8 見よ、主はひどい暑さをもつてその地をのろわれ、その不毛はとこしえに続くであろう。『そして、カナンのすべての子らのうえに暗黒がおよぶので、彼らはすべての民の中でさげすまれました。』

9 また、主はわたしに、『見なさい』と言われまし

た。そこで、わたしが眺めると、シヤロンの地と、エノクの地と、オムナーの地と、ヘニの地と、セムの地と、ハネルの地と、ハナニハの地と、そのすべての住民が見ええました。

10すると、主はわたしに言われました。『この民のところへ行つて、「悔い改めよ」と言いなさい。わたしが出て行つて、のろいをもつて彼らを打ち、彼らが死ぬことのないためである。』

11そして主は、御父と、恵みと真理に満ちておられる御子と、御父と御子のことを証される聖霊との御名によつてバプテスマを施すようにとの戒めをわたしに与えられました。」

12それからエノクは、カナンの民を除くすべての民に、悔い改めるように呼びかけ続けた。

13エノクの信仰は非常に深かつたので、彼は神の民を導いたが、敵が彼らと戦おうとして攻めて来た。そこで、彼が主の言葉を語ると、まことに彼の命に従つて、地は揺れ動き、山々は逃げ去つた。

水の流れる川はその流れを変え、ライオンのほえる声が荒れ野から聞こえた。そして、すべての民族が大いに恐れた。それほどエノクの言葉は力強

く、また、それほど神が彼に与えられた言葉の力は大いなるものであつた。

14また、海の深みから一つの陸が出てきた。神の民の敵は大いに恐れたので、逃れて遠く離れて立ち、海の深みから出てきた陸に上がつた。

15その地の巨人たちも遠く離れて立つた。そして、神に逆らつて戦つたすべての民にのろいが下つた。

16そのときから、彼らの中に戦争と流血があつた。しかし、主は来て、主の民とともに住まわれた。そして、彼らは義のうちに住んだ。

17主への畏れがすべての民族にあつた。それほど主の民のうえにある主の栄光は大いなるものであつた。主はその地を祝福され、彼らは山々の上と高い所で祝福されて、まことに榮えた。

18主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかつた。

19エノクは、義をもつて神の民に教えを説き続けた。そして、その生涯に、彼は一つの町を建て、それは聖なる都、すなわちシオンと呼ばれた。

10 ① モセ6・57
 ② GS「悔い改め」
 11 GS「恵み」
 ② GS「聖霊」
 13 GS「バプテスマ」
 ③ GS「信仰」
 ④ GS「マタ7・17・20」
 ⑤ GS「マタ7・34」
 ⑥ GS「神権」
 15 ① 創世6・4、
 ② モセ8・18
 17 ① 出エ23・27
 ② 歴上28・7-8、
 ③ 1ニフ17・35
 18 ① GS「シオン」
 ② 使徒4・32、
 ③ ビリ2・14、
 ④ GS「二致」

20 さて、エノクは主とともに語り、主に言った。「必ずや、シオンはとこしえに平穩に住むことでしょう。」しかし、主はエノクに言われた。「わたしはシオンを祝福したが、民の残りの者をのろつた。」
21 さて、主はエノクに、地に住むすべての者を見せられた。彼はまことに、時がたつてシオンが天に取り上げられるのを見た。また、主はエノクに、「とこしえにわたしの住まいを見なさい」と言われた。

22 エノクはまた、アダムの子らである民の残りの者も見た。彼らは、カインの子孫を除くアダムのすべての子孫の混じり合った者であつた。カインの子孫は肌が黒く、彼らの中にあるべき場所がなかつたからである。

23 そのシオンが天に取り上げられた後、エノクは、まことに、地のすべての民族が彼の前にあるのを見た。

24 そして、何世代かが過ぎ、エノクは高く上げられ、まことに、御父と人の子の懐にいた。そして、見よ、サタンが地の全面にあつた。

25 また、彼は天使たちが天から降るのを見た。そ

して、彼は大きな声が、「災いである。地に住む者は災いである」と告げるのを聞いた。

26 また、彼はサタンを見た。サタンはその手に大きな鎖を持ち、それは地の全面を覆つた。サタンは見上げて笑い、その使いどもは喜んだ。

27 エノクはまた、天使たちが天から降つて、御父と御子のことを証するのを見た。聖霊が多くの人に降られ、彼らは天の力によつてシオンに連れ去られた。

28 すると、天の神が民の残りの者を見て泣かれた。エノクはそのことを証して言つた。「どうして天が泣き、雨が山々に降り注ぐようにその涙を流すのですか。」

29 また、エノクは主に言つた。「あなたは、永遠から永遠にわたつて聖なる御方であるのに、どうして泣くことがおできになるのですか。」

30 人が地の微粒子、まことにこの地球のような幾百万の地球を数えることができたとしても、それはあなたが創造されたものの数の始めにも至りません。あなたのとばりは今なお広がっています。それでも、あなたはそこにおられ、あなたの懐はそこ

20 ① モセ 7: 62-63、GS「新エルサレム」

21 ① モセ 7: 69

22 ① 2ニフ 26: 33

23 ② GS「天」

24 ② GS 88: 47、モセ 1: 27-29

25 ③ GS「示現」

26 ① 2コリ 12: 11-14

27 ② アル 12: 11-14

28 ③ ユテ 1: 6、イサ 60: 1-2

29 ② イサ 60: 1-2

30 ① 教義 29: 36-37

31 ② GS「証」

32 ① イサ 63: 7-10

33 ① 教義 76: 24、モセ 1: 33

34 ② GS「創造

35 ① 教義 76: 24、モセ 1: 33

36 ② GS「創造

37 ① 教義 76: 24、モセ 1: 33

38 ② GS「創造

39 ① 教義 76: 24、モセ 1: 33

40 ② GS「創造

41 ① 教義 76: 24、モセ 1: 33

42 ② GS「創造

43 ① 教義 76: 24、モセ 1: 33

44 ② GS「創造

45 ① 教義 76: 24、モセ 1: 33

46 ② GS「創造

にあります。また、あなたは公正な御方です。とこしえに憐れみ深く、思いやりの深い御方です。

31 あなたは御自分が創造されたすべてのものの中から、永遠から永遠にわたって、シオンを御自分の懐に取り去られました。あなたの御座のある所には、ただ平安と公正と真理だけがあります。憐れみはあなたの前を進み、終わりがありません。どうしてあなたは泣くことができになるのですか。」

32 主はエノクに言われた。「これらあなたの兄弟たちを見なさい。彼らはわたし自身の手で造られたものである。わたしは彼らを創造した日に、彼らに知識を与えた。また、エデンの園で人に選択の自由を与えた。

33 わたしはあなたの兄弟たちに語って、互いに愛し合うように、また父であるわたしを選ぶようにという戒めも与えた。ところが見よ、彼らは愛情がなく、自分の血族を憎んでいる。

34 わたしの憤りの火は彼らに向かつて燃えている。わたしは激しい憤りをもって、彼らに洪水を送ろう。わたしの激しい怒りが彼らに向かつて燃えているからである。

35 見よ、わたしは神である。聖なる人とはわたしの名である。賢慮の人とはわたしの名であり、無窮も永遠もわたしの名である。

36 それゆえ、わたしは手を伸ばして、わたしが造ったすべての創造物を手に取ることができ。また、わたしの目はそれらを貫くこともできるが、わたしの手で造られたすべてのものの中で、あなたの兄弟たちの中にあるような大きな悪事のあつたことはない。

37 しかし見よ、彼らの罪はその先祖の頭にある。サタンが彼らの父となり、彼らの行く末は悲惨なものとなる。そして、すべての天が、まことにわたしの手で造られたすべてのものが、彼らのために泣くであろう。それゆえ、これらが苦しむのを見て、どうして天が泣かないということがあろうか。

38 しかし見よ、あなたがその目で見ているこれらの者は、洪水の中で滅びるであろう。見よ、わたしは彼らを締め出す。わたしは彼らのために獄を用意している。

39 また、わたしの選んだ者がわたしの前で嘆願した。それゆえ、彼は彼らの罪のために苦しみを受け

31 GS「平安、平和」

32 GS「正義」

32 GS「真理」

32 GS「知識」

33 GS「選択の自由」

34 GS「愛」

34 ナホ1:6、
イザ30:27、
教義35:14

34 ②創世7:4、10、
モセ8:17、24、

35 GS「ノアの時代の洪水」

35 ①モセ6:57、
②モセ1:3

36 ①教義38:2、88:41、
モセ1:35、37

38 ②創世6:5-6、
モセ8:22、28-30、
モセ1:18、19、20、

38 GS「地獄」

39 ①救い主を指す

る。わたしの選んだ者がわたしのもとに帰る日に彼らが悔い改めるならば、その日まで、彼らは苦しみの中にいるであろう。

40 このゆえに、天と、わたしの手で造られたすべてのものは泣くのである。」

41 そして、主はエノクに語り、人の子らのすべての行いをエノクに告げられた。そこでエノクはそれを知り、彼らの悪事と惨めな状態を見て泣き、その両腕を伸べた。すると、彼の心は永遠のように膨れ広がり、その胸は悲しみに打たれた。そして、永遠なるものすべてが揺れ動いた。

42 エノクはまた、ノアとその家族を見た。ノアのすべての息子たちの子孫が現世の救いを得るのを、彼は見た。

43 エノクはノアが箱船を造るのを見た。また、主がそれを見てほほえみ、御手の中にそれを保たれるのを、エノクは見た。しかし、悪人の残りの者には洪水が押し寄せ、彼らをのみ込んでしまった。

44 エノクはこれを見ると、心に苦しみを覚え、その兄弟たちのために泣いて、天に向かって、「わたしは慰められるのを拒みます」と言った。しかし、

主はエノクに言われた。「心を高めて喜び、そして見なさい。」

45 そして、エノクは見た。すると、ノアから始まり、地のすべての氏族が見えた。そこで、彼は主に叫んで言った。「いつ主の日が来るのでしょうか。いつ義なる御方の血が流されて、嘆き悲しむすべての者が聖められ、永遠の命を受けられるようになるのでしょうか。」

46 主は言われた。「それは時の中間、悪事と報復の時代である。」

47 見よ、エノクは、人の子がまことに肉体を取って来られる日を見た。そして、彼は心から喜んで言った。「義なる御方が上げられる。小羊は世の初めからほふられている。信仰によって、わたしは御父の懐におり、まことに、シオンはわたしとともにある。」

48 それから、エノクは地を見た。すると、地の中から声が聞こえた。「災いだ。人々の母であるわたしは、災いだ。わたしの子供たちの悪事のゆえに、わたしは苦しみ、疲れている。わたしはいつ安息を得て、わたしより出た汚れから清められるのか。」

39 ② モセ4:2,

アブ3:27,

GS「イエス・キリスト」

③ GS「謂の定め」

41 ① モサ28:3,

GS「哀れみ」

42 ① GS「ノア」族長」

② モセ8:12

43 ① 創世6:14-16,

エテ6:7

44 ① 詩篇77:2,

エテ15:3

45 ① GS「聖め」

46 ① モセ5:57

47 ① GS「神の小羊」

② モセ7:21

48 ① GS「地球」地

地球の清め」

② モセ7:54,

58,

64

GS「汚れ」

わたしの創造主はいつわたしを聖めてくださり、わたしは安息を得て、義がしばらくの間わたしの面にあるようにしてくださいませんか。」

49 エノクは地が嘆き悲しむのを聞いたとき、泣いて、主に叫んで言った。「おお、主よ、あなたは地に哀れみをかけられないのですか。あなたはノアの子孫を祝福なさらないのですか。」

50 エノクは主に叫び続けて言った。「おお、主よ、地が二度と洪水で覆われることのないように、ノアとその子孫を憐れんでくださるよう、わたしはあなたの独り子、すなわちイエス・キリストの御名によって願います。」

51 そこで、主はそれに応じないではいられなかった。そして、主はエノクに聖約し、洪水をどめると、ノアの子孫に呼びかけることを彼に誓って約束された。

52 そして、主は、大地のあるかぎり、彼の子孫の残りの者がいつでもすべての民族の中に見いだされるという不変の定めを出された。

53 そして、主は言われた。「子孫からメシヤが出る者は、幸いである。彼は、『わたしはメシヤである、シオンの王であり、永遠のように広い天の岩である。だれでも門に入り、わたしによって登る者は、決して落ちることがない。それゆえ、わたしは語った者たちは、幸いである。彼らは永遠の喜びの歌を歌いながら来るからである』と言う。」

54 さらに、エノクは主に叫んで言った。「人の子が肉体を取って来られるとき、地は安息を得るのでしょうか。どうか、これらのことをわたしにお示しください。」

55 すると、主はエノクに、「見なさい」と言われた。そこで、彼が眺めると、人の習わしに従って人の子が十字架に上げられるのを見た。

56 また、彼は大きな声を聞いた。天が覆われ、神が創造されたすべてのものが嘆き悲しみ、地がうめき、もろもろの岩が裂けた。また、聖徒たちがよみがえって、人の子の右において栄光の冠を受けた。

57 獄にいた霊たちの多くが出て来て、神の右に立った。そして、残りの者は、大いなる日の裁きまで暗闇の鎖につながれていた。

58 そこで再び、エノクは泣き、主に叫んで言った。「地はいつ安息を得るのでしょうか。」

51 詩篇104:6-9
52 ①モセ8:2
②GS「メシヤ」
マク2:2、
2ニフ10:14、
アル5:50
53 ①教義128:22
②詩篇71:3、78:35
ヒラ5:12、
GS「岩」
54 ①GS「人の子」
②ニフ31:19-20
③GS「音楽」
④3ニフ27:14、
「十字架の刑」
55 GS
56 ①マク27:45-51
②GS「復活」
③マク25:34
④GS「冠」「昇栄」
57 ①教義76:71-74、
GS「霊」
58 ②GS

59するとエノクは、人の子が御父のもとに昇つて行かれるのを見た。そこで、彼は主に呼びかけて言った。「あなたは再び地上に来られないのでしょうか。あなたは神であられ、わたしはあなたを知っており、あなたはわたしに誓いをなし、あなたの独り子の名によつて尋ねるようにならぬに命じられました。あなたはわたしを造り、あなたの御座に至る権利を、わたし自身によらず、あなたの御自身の恵みによつてわたしに与えてくださいました。それでわたしは、あなたが再び地上に来られるかどうかお尋ねするのです。」

60すると、主はエノクに言われた。「わたしが生きているように、まことにそのように、わたしは終わりの時に、すなわち悪事と報復の時代にきて、わたしがノアの子孫に關してあなたに立てた誓いを果たそう。」

61地が安息を得る日が来る。しかし、その日の前に、天は暗くなり、暗黒の幕が地を覆うであろう。天が震え、地も震えるであろう。そして、ひどい艱難が人の子らの中にあるが、わたしは自分の民を守ろう。

62また、わたしは天から義を下そう。また、地から真理を出して、わたしの独り子と、死者の中からの独り子の復活と、またすべての人の復活について証しよう。そして、わたしは義と真理が洪水のごとくに速やかに地に広まるようにし、わたしが備える場所、すなわち聖なる都に地の四方からわたしの選民を集めよう。それは、わたしの民がその腰に帯を締め、わたしの来臨の時を待ち望めるようにするためである。わたしの幕屋はそこにあり、そこはシオン、すなわち新エルサレムと呼ばれるであろう。」

63また、主はエノクに言われた。「そのとき、あなたとあなたの町のすべての者はそこで彼らに会い、わたしたちは彼らを懐に迎え入れ、彼らはわたしたちを見るであろう。そして、わたしたちは彼らの首を抱き、彼らはわたしたちの首を抱いて、わたしたちは互いに口づけするであろう。」

64わたしの住まいはそこにある。それは、わたしが造つたすべての創造物の中から出て来るシオンである。そして、千年の間、地は安息を得るであろう。」

60 ① GS「終わりの時、末日」
① GS「地球（地）最終的な状態」

112 ② 教義 38・11・12、

③ GS「審」
④ 1ニフ 22 15・22、

⑤ 2ニフ 30・11、

62 GS「福音の回復」

③ GS「モーゼン書」
④ GS「復活」
⑤ GS「証」

⑥ GS「イスラエル―イスラエルの集合」

63 ⑦ GS「新エルサレム」
① 黙示 21・9・11、

② 教義 45・11・12、
モセ 7・19・21

64 ① GS「福千年」
② モセ 7・48

65 それからエノクは、人の子が千年の間地上で義のうちに住むために、終わりの時に来られる日を見た。

66 しかし、その日の前にひどい艱難が悪人の中にあるのを、彼は見た。彼はまた海も見したが、それは荒れていた。そして、人々は気落ちして、悪人に下る全能の神の裁きを恐れながら待っていた。

67 主はエノクに、まことに世の終わりに至るまですべてのことを示された。そして、彼は義人の日、彼らの贖いの時を見て、喜びに満たされた。

68 エノクの生涯におけるシオンの時代は、合わせて三百六十五年であった。

69 エノクとそのすべての民は神とともに歩み、彼はシオンの中に住んだ。それから、シオンはなくなつた。神が御自身の懐にそれを迎え入れられたからである。そのことから、「シオンは消えうせた」という言葉が広まった。

第 8 章

(千八百三十一年二月)

メトセラ、預言する。ノアとその息子たち、福音を宣

べ伝える。ひどい悪事が広がる。悔い改めの呼びかけは無視される。神は洪水によるすべての肉なるものの滅びを定められる。

1 エノクの年は合わせて四百三十年であった。

2 エノクの息子メトセラは、主がエノクに立てられた聖約が果たされるために取り去られなかった。主はまことにエノクに、ノアが彼の腰から出ると聖約されたからである。

3 そこで、メトセラは自分の子孫から（ノアを通して）地のすべての王国が出ると預言し、栄光を自分のものとした。

4 地にひどい飢饉が起こつた。主はひどいのろいをもつて地をのろわれ、地に住む多くの者が死んだ。

5 さて、メトセラは百八十七歳になって、レメクをもうけた。

6 メトセラはレメクをもうけた後、七百八十二年生きて、息子、娘たちをもうけた。

7 メトセラの年は合わせて九百六十九歳であった。そして、彼は死んだ。

8 レメクは百八十二歳になって、男の子をもうけ、

65 ① ユタ1:14
GS「イエス・キリストの再臨」
66 ① イザ13:6-7
67 ① GS「最後の裁き」
68 ① 創世5:23
69 ① 創世13:1
70 モセ6:34
GS「歩む（神とともに）」
第8章
2 ① GS「メトセラ」

9「この子こそ、主が地をのろわれたため、骨折り
 働く我々を慰めるもの」と言つて、その子をノア
 と名づけた。

10レメクはノアをもうけた後、五百九十五年生
 て、息子、娘たちをもうけた。

11レメクの年は合わせて七百七十七歳であつた。そ
 して、彼は死んだ。

12ノアは四百五十歳でヤベテをもうけ、四十二年
 後にヤベテの母によつてセムをもうけ、五百歳の
 ときにハムをもうけた。

13ノアとその息子たちは主の言葉を聴いて、心に
 留めた。そして、彼らは神の子と呼ばれた。

14これらの人が地の面に増え始め、娘たちが彼らに
 生まれたとき、人の子らはこれらの娘が美しいの
 を見て、自分たちの選んだ者を妻とした。

15主はノアに言われた。「あなたの息子たちの娘た
 ちは自分自身を売り渡した。見よ、わたしの怒りは
 人の子らに向かつて燃えている。彼らがわたしの声
 に聞き従おうとしないからである。」

16そこで、ノアは預言し、神にかかわることを、そ
 れが初めにあつたとおりに教えた。

17主はノアに言われた。「わたしの御霊はいつでも
 人を励ますわけではない。人はすべての肉なるも
 のが死ぬことを知るであらう。それでも、人の年は
 百二十年である。もし人々が悔い改めなければ、わ
 たしは彼らに洪水を送らう。」

18その時代には地上に巨人たちがおり、彼らはノ
 アを捜して命を取ろうとした。しかし、主がノアと
 ともにおられ、主の力が彼のうえにあつた。

19そして、主は御自分の位に従う者としてノアを
 聖任され、彼に、出て行つて、エノクに与えられ
 たとおりに人の子らに福音を告げ知らせるよう命
 じられた。

20そこで、ノアは人の子らに、悔い改めるように
 と呼びかけた。しかし、彼らはノアの言葉に耳を傾
 けなかつた。

21また、彼らはノアの語ること聞いた後、彼の前
 にやつて来て言つた。「見よ、我々は神の子だ。
 我々は人の娘たちをめぐつたではないか。我々は
 食べたり、飲んだり、めとつたり、嫁いだりしてい
 るではないか。我々の妻は我々に子供を産み、そ
 の子たちは昔の人々のように勇士であり、非常に名

21また、彼らはノアの語ること聞いた後、彼の前
 にやつて来て言つた。「見よ、我々は神の子だ。
 我々は人の娘たちをめぐつたではないか。我々は
 食べたり、飲んだり、めとつたり、嫁いだりしてい
 るではないか。我々の妻は我々に子供を産み、そ
 の子たちは昔の人々のように勇士であり、非常に名

9 ①モセ4・23
 ②GS「アア族長」
 12 ①創世5・32
 GS「ヤベテ」
 ②③GS「セム」
 13 ①教義138・41
 GS「ガブリエル」
 ②GS「従順、従う」
 GS「神の息子、娘」
 15 14
 ①GS「結婚、異なつた信仰を持つ人との結婚」
 17 ①創世6・3、
 2「創世26・11、
 エテ2・15
 教義1・33
 ②2ニ79・4、
 ③GS「肉」
 ④創世7・4、10、
 18 モセ7・34
 ①創世6・4、
 民数13・33、
 ヨシ17・15
 19 GS「力」
 ①GS「メルキゼデク神権」
 ②アブ1・19
 GS「聖任」52、
 21 20
 ①GS「伝道活動」
 ①GS「悔い改め」
 ①マタ24・38・39、
 ジーマタ1・41

高い者たちである。」こうして、彼らはノアの言葉に耳を傾けなかつた。

22 神は、人の悪が地上でひどくなり、すべての人がその心に思い計ることで高ぶっており、いつも悪いことばかりを考えているのを御覧になつた。

23 そこで、ノアは民に教えを説きつけて言った。「聞きなさい。わたしの言葉を心に留めなさい。」

24 信じて罪を悔い改め、わたしたちの先祖のように神の御子イエス・キリストの御名によつてバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖

霊を受けて、すべてのことが明らかにされるであらう。もしこのことをしなければ、洪水があなたがたを襲うであらう。」それでも、彼らは耳を傾けなかつた。

25 ノアは、主が地上に人を造られたことを悔やみ、心を痛めた。彼はそれを心に深く悲しんだ。

26 すると、主は言われた。「わたしが創造した人、地の面からぬぐい去らう。人も獣も、這うものも、

空の鳥までも。わたしがそれらを創造し、それらを造つたことを、ノアが悔やんでいる。彼はわたしに呼び求めてきた。彼らが彼の命を取ろうとしたからである。」

27 このようにして、ノアは神の前に恵みを得た。ノアは正しい人であり、その時代の人々の中で完全であつたからである。彼は神とともに歩んだ。その三人の息子、セム、ハム、ヤベテも同様であつた。

28 世は神の前に墮落して、暴虐が地に満ちた。

29 神が地を見られると、まことにそれは墮落していた。すべての肉なるものが地の上でその道を乱したからである。

30 そこで、神はノアに言われた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は暴虐で満ちている。まことに、わたしはすべての肉なるものを地から滅ぼそう。」

22 ① 創世6・5、モセ7・36・37、② モサ4・30、アル12・14、

24 23 ① GS「思い」
② ① GS「信じる」
GS「バプテスマ」
資格

26 ① GS「地球・地」
地球の清め」
27 ① GS「恵み」
② ① GS「歩む（神と
ともに）」

28 ① 創世6・11-13
② ① 教義56・3

アブラハム書からの模写

第一



説明

1. 主の天使。
2. 祭壇上に縛られたアブラハム。
3. アブラハムを犠牲としてささげようとしている、エルケナの神を偶像礼拝する祭司。
4. エルケナとリブナ、マーマクラ、コラシ、およびパロの神々の前にある、偶像礼拝する祭司たちが犠牲をささげる祭壇。
5. 偶像礼拝のエルケナの神。
6. 偶像礼拝のリブナの神。
7. 偶像礼拝のマーマクラの神。
8. 偶像礼拝のコラシの神。
9. 偶像礼拝のパロの神。
10. エジプトでのアブラハム。
11. エジプト人が理解したとおりに、天の柱を表すもの。
12. ラーキーン、天空、すなわち頭上の大空の意。しかし、ここではこの題目に関して、エジプト人はこれによってシャーマー、すなわちヘブライ語のシャーマイムに相当する言葉で、高いこと、つまり天を表した。

アブラハム書

ジョセフ・スミスがパピルスから翻訳したもの

エジプトの地下墓場から得られた幾つかの昔の記録の翻訳。「アブラハム書」と呼ばれる、アブラハムがエジプトにいた間に彼自身の手でパピルスに記した書き物。

第 1 章

アブラハム、族長制度の祝福を求める。アブラハム、カルデヤで偽祭司たちによって迫害される。エホバがアブラハムを救い出される。エジプトの起源と政体が概観される。

1 わたしの先祖が住んでいたカルデヤ人の地において、わたしアブラハムは、別の居住の地を得ることが自分にとって必要であることを知った。

2 また、わたしのためにさらに大いなる幸福と平安と安息があるのを知り、わたしは先祖の祝福と、

わたしが聖任されるべきそれらの祝福をつかさどる権利とを得ようと努めた。わたしは自分自身が義に従う者であつたので、また、多くの知識を持つ者となり、義に従うさらに大いなる者となることを望み、もつと多くの知識を持ち、多くの国民の先祖、平和の君となることを望み、また数々の指示を受け、神の戒めを守ることを望んだので、先祖に属する権利を持つ正当な相続人、大祭司となつた。

3 それは先祖からわたしに授けられた。それらから、時の初めから、まことに初めから、すなわち地が造られる前から現在まで伝わつたものである。それは長子、すなわち最初の人、すなわちアダム、すなわち最初の先祖の権利であり、先祖たちを通してわたしに至つたものである。

4 わたしは、子孫に関して先祖に与えられた神の定めに従つて、神権に任じられることを求めた。

5 わたしの先祖は、彼らの義と主なる彼らの神が与えられた聖なる戒めから離れて、異教徒の神々を礼拝し、わたしの言葉を聴くのをまったく拒んだ。

6 彼らは悪を行うことをその心に留め、エルケナの神と、リブナの神と、マーマクラの神と、コラシ

アブラハム書
第 1 章

1 GS 「カレ」

2 GS 「アブラハム」

3 GS 「喜び」

4 GS 「安息」

5 GS 「義」

6 GS 「大祭司」

7 GS 「知識」

8 GS 「アダム」

9 GS 「長子の特権」

10 GS 「創世 12:1」

11 GS 「偶像礼拝」

12 GS 「アブラハム書撰訂第一に描かれている偽りの神々」

13 GS 「長子の特権」

14 GS 「大祭司」

15 GS 「長子、初子」

16 GS 「モゼー 34」

17 GS 「アダム」

18 GS 「大祭司」

19 GS 「知識」

20 GS 「アダム」

21 GS 「長子の特権」

22 GS 「創世 12:1」

23 GS 「偶像礼拝」

24 GS 「アブラハム書撰訂第一に描かれている偽りの神々」

25 GS 「長子の特権」

26 GS 「大祭司」

27 GS 「長子、初子」

28 GS 「モゼー 34」

29 GS 「アダム」

30 GS 「大祭司」

31 GS 「知識」

32 GS 「アダム」

33 GS 「長子の特権」

34 GS 「創世 12:1」

の神と、エジプトの王パロの神にすっかり頼り切っていたからである。

7そこで、彼らは異教徒の犠牲にその心向け、これら口の利けない偶像に彼らの子供たちをささげ、わたしの声を聴こうとせず、エルケナの祭司の手によってわたしの命を取ろうとした。エルケナの祭司はまた、パロの祭司であった。

8さて当時、カルデヤの地に築かれた祭壇上でこれら異国の神々への犠牲として男女や子供をささげることが、エジプトの王パロの祭司の習わしであった。

9そして、祭司はエジプト人の流儀に従って、パロの神にささげ物をし、またシヤグレールの神にもささげ物をした。ところで、シヤグレールの神は太陽であった。

10パロの祭司は、オリシエムの平野の奥にあるポテパルの丘と呼ばれた丘のそばにあった祭壇上で、子供を感謝のささげ物としてささげることさえ行なった。

11さて、この祭司は、かつてこの祭壇上で三人のおとめをささげた。このおとめたちは、ハムの直

系の王家の一人であるオニタの娘たちであった。このおとめたちはその節操のゆえにささげられたのである。彼女たちは木や石の神々をひれ伏して拜もうとしなかったために、この祭壇上で殺された。そして、それはエジプト人の流儀に従って行われた。

12さて、祭司たちはわたしに暴力を振るい、この祭壇上でそのおとめたちを殺したように、わたしも殺そうとした。この祭壇について知るために、この記録の初めにある絵図を参照してほしい。

13それはカルデヤ人の間で用いられたような寝台の形に做って造られ、エルケナ、リブナ、マーマクラ、コラシの神々の前、およびエジプトの王パロの神に似た神の前に置かれていた。

14あなたがたがこれらの神々について理解できるように、わたしは冒頭の図形中にそれらの型を示した。このような種類の図形を、カルデヤ人はラーレノスと呼ぶ。それは象形文字という意味である。

15彼らがわたしをささげて命を取るために、その手をわたしの上に振り上げたとき、見よ、わたしは主なる神に声を上げた。すると、主は耳を傾けて

聞いてくださり、全能者の示現でわたしを満たしてくださいました。そして、主の前の天使がわたしの傍らに立ち、直ちに縄を解いてくれた。

16そして、主の声がわたしに及んだ。「アブラハム、アブラハム、見よ、わたしの名はエホバである。わたしはあなたの声を聞いた。そして、あなたを救い出し、あなたを父の家から、すべての親族からあなたの知らない異国の地へ連れ出すために降ってきた。

17これは、彼らがその心をわたしから背けて、エルケナの神と、リブナの神と、マーマクラの神と、コラシの神と、エジプトの王パロの神を礼拝したためである。そこでわたしは、彼らに報いを下し、わたしの子であるあなたアブラハムの命を取ろうとして手を振り上げた者を滅ぼすために、降って来たのである。

18見よ、わたしはわたしの手によってあなたを導こう。わたしはあなたを受け入れて、わたしの名、すなわちあなたの父の神権を与えよう。わたしの力はあなたのうえにあるであろう。

19それはノアとともにあったように、あなたとともに

にあるであろう。しかし、あなたの働きによって、わたしの名はとこしえにこの世に知られるであろう。わたしはあなたの神だからである。」

20見よ、ポテバルの丘は、カルデヤのウルの地にあった。主はエルケナの祭壇とその地の神々の祭壇を壊し、それらを完全に破壊し、祭司を打たれたので、彼は死んだ。そして、カルデヤに、またパロの宮廷に大きな嘆きがあった。パロとは、王族の血統による王を意味する。

21さて、このエジプトの王は、ハムの腰から出た子孫であり、生まれはカナン人の血統を引いた者であった。

22この家系からすべてのエジプト人が出て、カナン人の血がその地に残されたのである。

23エジプトの地は最初に一人の女によって発見された。この女はハムの娘であり、エジプトスの娘であった。エジプトスとは、カルデヤ語でエジプトを意味し、禁じられたものという意味である。

24この女がその地を発見したとき、それは水の下にあったが、後に彼女はそこに息子たちを定住させた。このようにして、ハムから、その地にのろいを

16 15 アブ2 13
 17 ① GS 「エホバ」
 18 ① GS 「約束の地」
 19 ① GS 「神権」
 20 アブ2: 4
 21 ① 創世10: 28、
 詩篇78: 51、
 22 ① 創世10: 6、
 23 ① GS 「カナン、カナン人」
 ② モセ7: 6-8、
 ③ GS 「エジプト」

とどめた人種が出たのである。

25 さて、エジプトの最初の政府は、ハムの娘であるエジプトスの長男パロによって設けられた。それはハムの政府に倣い、族長制であった。

26 パロは義になつた人であり、王国を設立して、生涯賢明かつ公正に民を治め、最初の世代、最初の族長統治の時代、すなわちアダムやノアの治世に先祖たちによって設けられた制度を模倣しようとして熱心に努めた。ノアは彼の先祖であり、彼に地の祝福と知恵の祝福を授けたが、神権に関しては彼をのろつた。

27 さて、パロは神権の権利を持つことのできない血統の出であったが、パロたちは、ハムを通してノアからそれを受けたと自ら主張した。そのため、わたしの父は彼らの偶像礼拝に惑わされたのである。

28 しかし、わたしはこの後、わたし自身から創造の初めまでさかのぼって年代記を書くようにしよう。数々の記録がわたしの手に入り、わたしは現在までそれを所有しているからである。

29 さて、エルケナの祭司が打たれて死んだ後、その

地に飢饉があるであろうとカルデヤの地についてわたしに言われたことが成就した。

30 このために、飢饉がカルデヤの全地に広がった。すると、わたしの父はその飢饉のためにひどく苦しむ、わたしの命を取ろうとわたしに対して企てた悪事を悔いた。

31 しかし、神権の権利に関する先祖すなわち族長たちの記録を、主なるわたしの神は、わたしの手の中に残された。したがって、創造の始まりと、もろもろの遊星と、もろもろの星の知識を、それらが先祖に知らされたとおりに、わたしは今日まで保持してきたのである。そこで、わたしの後に来る子孫の益のために、わたしはこれらの事柄の多くをこの記録に書くようにしよう。

第 2 章

アブラハム、ウルの地を去つてカナンの地へ向かう。エホバ、ハランでアブラハムに御姿を現される。すべての福音の祝福がアブラハムの子孫に、またアブラハムの子孫を通してすべての人に約束される。アブラハム、カナンへ行き、続いてエジプトに向かう。

1 さて、主なる神がウルの地において飢饉をひどくされたので、わたしの兄弟ハランは死んだ。しかし、わたしの父テラはなお、カルデヤのウルの地に住んでいた。

2 そして、わたしアブラハムはサライをめぐり、わたしの兄弟ナホルはミルカをめぐった。ミルカはハランの娘であった。

3 さて、主はわたしに言われた。「アブラハム、あなたは国を出て、親族と別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。」

4 そこで、わたしはカルデヤのウルの地を去り、カナンの地に向かった。わたしは兄弟の子ロトとその妻、およびわたしの妻サライを連れて行った。わたしの父も、わたしたちがハランと名付けた地までわたしについて来た。

5 そして、飢饉が和らいだ。すると、父はハランにとどまり、そこに住んだ。ハランには多くの羊の群れがあったからである。父は再び偶像礼拝に戻り、そのためにハランにとどまった。

6 しかし、わたしアブラハムとわたしの兄弟の子ロトは、主に祈った。すると、主はわたしに現れ

て言われた。「立つて、ロトを伴って行きなさい。わたしはあなたをハランから連れ出し、異国の地において、あなたをわたしの名を負う仕え人にする」と定めたからである。あなたの後の子孫がわたしの声に聞き従うときに、わたしはその地を彼らに永遠の所有として与えるであろう。

7 わたしは主なるあなたの神である。わたしは天に住み、地はわたしの足台である。わたしが海の上に手を差し伸べると、それはわたしの声に従う。わたしは風と火をおこしてわたしの車とする。わたしは山々に向かつて『ここを去れ』と言えば、見よ、それらは突如一瞬にして旋風により取り去られる。

8 わたしの名はエホバであり、わたしは初めから終わりを知っている。それゆえ、わたしの手はあなたのうえにある。

9 わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを計り知れないほど祝福し、あなたの名をすべての国民の間で大いなるものとしよう。あなたはあなたの後の子孫にとって祝福となり、彼らはすべての国民にこの務めと神権を携えて行くであろう。

第2章

1 ① 創世11・28

2 ② 創世11・24・26

2 ① 創世11・29

GS「サラ」

2 ② 創世11・27

3 ① 創世12・1

① 創世12・1

4 ① 創世12・1

4 ① ネヘ9・7

5 ② 創世11・31

6 ① GS「ロト」

6 ② 創世17・1

GS「イエス・キリスト

―前世におけるキリスト」

17 ③ 創世13・14・15

17 ④ 創世13・14・15

17 ⑤ 創世13・14・15

17 ⑥ 創世13・14・15

17 ⑦ 創世13・14・15

17 ⑧ 創世13・14・15

17 ⑨ 創世13・14・15

17 ⑩ 創世13・14・15

17 ⑪ 創世13・14・15

17 ⑫ 創世13・14・15

17 ⑬ 創世13・14・15

17 ⑭ 創世13・14・15

17 ⑮ 創世13・14・15

17 ⑯ 創世13・14・15

17 ⑰ 創世13・14・15

17 ⑱ 創世13・14・15

17 ⑲ 創世13・14・15

17 ⑳ 創世13・14・15

17 ㉑ 創世13・14・15

17 ㉒ 創世13・14・15

17 ㉓ 創世13・14・15

17 ㉔ 創世13・14・15

17 ㉕ 創世13・14・15

17 ㉖ 創世13・14・15

17 ㉗ 創世13・14・15

GS「メルキゼデク神権」

10 わたしはあなたの名によって彼らを祝福しよう。この福音を受け入れるすべての者はあなたの名によって呼ばれ、あなたの子孫と見なされ、立ち上がってあなたを父としてたたえるであろう。

11 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべての氏族は、あなた（すなわち、あなたの神権）によって、また、この権利はあなたによって続くという約束をわたしはあなたに与えるのであなたの子孫（すなわち、あなたの神権）によって、またあなたの後の子孫（すなわち、文字どおりの子孫、肉体の子孫）によって、救いの祝福すなわち永遠の命の祝福である福音の祝福を授けられるであろう。」

12 さて、主がわたしに語るのをやめて、わたしから退かれた後、わたしは心の中で言った。「あなたの僕はあなたを熱心に求めてきました。そして今、わたしはあなたを見いだしました。」

13 あなたは天使を遣わして、エルケナの神々からわたしを救い出してくださいました。わたしはあなたの御声によく聞き従うようにしますので、あなたの僕を立ち上げさせて、安らかに去らせてください。

い。」

14 それで、わたしアブラハムは、主が言われたように出かけた。ロトもわたしと一緒に行った。わたしアブラハムはハランを出たとき、六十二歳であった。

15 わたしは、カルデヤのウルにいたときにとつたザライと、わたしの兄弟の子ロトと、わたしたちが集めたすべての財産と、ハラんで得た人々を伴い、カナンの地へ向かう道に出て、道を進みながら天幕に住んだ。

16 したがって、わたしたちがハランからジェルシオンを通ってカナンの地へ向かう旅をしていたとき、永遠はわたしたちの覆いであり、わたしたちの岩であり、わたしたちの救いであった。

17 さて、わたしアブラハムは、ジェルシオンの地で祭壇を築き、主にささげ物をして、わたしの父の家から飢饉が去って彼らが滅びることのないようにと祈った。

18 その後、わたしたちは、ジェルシオンからその地を通ってシケムの地に着いた。それはモレの平野にあり、わたしたちはすでにカナン人の地の境に入

10 ① ガラ3:7-9

② 創世13:16、ガラ3:29

2ニフ30:2

11 ① GS「アブラハムの聖約(契約)」

② GS「イスラエル」

「神権」

「長子の特権、生得権」

12 ③ イザ61:9

① 教義88:63

13 ① アブ1:15-17

14 ① 創世12:4-5

15 ① GS「ウル」

16 ② GS「ザラ」

③ GS「改宗」

④ GS「カナン、カナン人」

17 ① GS「祭壇」

② GS「二岩」

18 アブ1:29

創世12:6

っていた。わたしはモレの平野のそこで犠牲をささげ、心から主に呼び求めた。すでにこの偶像礼拝をする民族の地に入っていたからである。

19すると、主はわたしの祈りにこたえて、わたしに現れ、「わたしはあなたの子孫にこの地を与える」と言われた。

20そこで、わたしアブラハムは、主のために築いた祭壇の所から立ち上がり、そこからベテルの東の山に移って天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。そこにわたしは主のために別の祭壇を築いて、再び主の名を呼んだ。

21そして、わたしアブラハムはなおも進んで、南へ旅を続けた。その地には飢饉が続いていた。そこで、わたしアブラハムはエジプトに下って行き、そこに滞在することにした。飢饉が非常に激しくなつたからである。

22さて、わたしがエジプトに入ろうとしてそこに近づいたとき、主はわたしに言われた。「見よ、あなたの妻サライは、見るに非常に美しい女である。」

23それで、エジプト人はサライを見ると、『この女はあの男の妻だ』と言ってあなたを殺し、サライは

生かしておくであろう。それゆえ、あなたは次のように行うようにしなさい。

24サライに、あなたの妹であるとエジプト人に言わせなさい。そうすれば、あなたの命は助かるであろう。」

25そこで、わたしアブラハムは、主がわたしに言われたことをすべて妻サライに告げた。「だから、どうかわたしの妹だと彼らに言ってほしい。そうすれば、わたしはあなたのおかげで無事であり、わたしの命はあなたによって助かるであろう。」

第3章

アブラハム、ウリムとトンミムによって太陽と月と星のことを知る。主はアブラハムに、霊の永遠性を明らかにされる。アブラハム、前世と予任、創造、贖い主の選び、人の第二の位のことを知る。

1わたしアブラハムは、主なるわたしの神がカルデヤのウルでわたしに与えてくださったウリムとトンミムを持っていた。

2そこで、わたしが数々の星を見ると、それらは

19 18 ② GS「犠牲」
創世13・12・15、

17 ① 出エ3・11・10、
民数34・2、

20 ① GS「ベテル」
GS「約束の地」

② 創世13・3・4
③ 創世12・8

22 ① 創世12・11・13

第3章

1 ① 出エ28・30、
モサ8・13・28・13・16、

ジー歴史1・35
GS「ウリムとトンミム」

2 ① アブ1・31

きわめて大いなるもので、その中の一つは神の御座の最も近くにあった。また、その近くには大いなる星が多数あった。

3 主はわたしに言われた。「これらは支配する星である。そして、その大いなる星はわたしの近くにあるので、その名をコロブという。わたしは主なるあなたの神である。わたしは、あなたが今立っている星と同じ系統に属するすべての星を治めるように、この星を置いた。」

4 主は、ウリムとトンニムによってわたしに言われた。「コロブは、その回転による時と季節については主の場合と同じであり、その一回転は主の計算の方法によれば主の一日であって、それはあなたが今立っている星に定められた時によれば千年である。これはコロブの計算による主の時の計算である。」

5 主はわたしに言われた。「小さい光である遊星、すなわち夜をつかさどる遊星は、昼をつかさどるものよりも小さいが、計算の点では、あなたが今立っているものよりも上位にある、すなわちもつと大いなるものである。それはもつとゆつくり整然と

運行しているからである。これが秩序になつてい
るのは、それがあなたの立っている地よりも上位に
あるからである。それゆえ、その時の計算は、その
日と月と年の数に關してはそれほど多くはない。」

6 主はわたしに言われた。「さて、アブラハム、これ
ら二つの事実がある。見よ、あなたはそれを見て
いる。あなたには、計算の時と定められた時、すな
わち、あなたが立っている地の定められた時と、昼
をつかさどるために置かれている大きい光の定めら
れた時と、夜をつかさどるために置かれている小
い光の定められた時を知ることが許されている。

7 さて、小さい光の定められた時は、その時の計
算に關しては、あなたが立っている地の時の計算
よりも長い。

8 これら二つの事実がある所では、これらの上にま
た別の事実がある。すなわち、時の計算がさらに長
い別の遊星があるということである。

9 このように、ある遊星の時の計算は別の遊星のそ
れよりも上位にあり、ついにあなたはコロブに近づ
く。このコロブは主の時の計算に等しい。このコロ
ブは神の御座の近くに置かれ、あなたが立っている

3 ① 模写第二、四1-5
を参照

4 GS「コロブ」

① アブ5:13

② 詩篇90:4、
2ベテ3:8

① アブ3:16-19

遊星と同じ系統に属するすべての遊星を支配する。
 10 あなたには、神の御座に近づくまで、光を与えるために置かれていてはすべての星の定められた時を知ることが許されている。」

11 このように、わたしアブラハムは、人が互いに語り合うように顔と顔を合わせて主と語った。そして、主はその手で造られたものについてわたしに告げられた。

12 主はわたしに、「息子よ、息子よ（このように言って御手を伸ばされ）、見よ、わたしはあなたにこれらすべてを示そう」と言われた。そして、主がその手をわたしの両目に当てられると、主の手で造られたそれらのものがわたしに見えたが、それらは数多かった。それらはわたしの目の前で増えて、わたしはその終わりを見ることができなかった。

13 主はわたしに言われた。「これはシネハ、すなわち太陽である。」また、主はわたしに言われた。「コブ、これは星である。」また、主はわたしに言われた。「オレア、これは月である。」また、主はわたしに言われた。「コカーベアム、これはもろもろの星、すなわち天の大空にあるすべての大きな光を

意味する。」

14 主がこれらの言葉をわたしに告げられたのは、夜であった。「わたしはこれらのように、あなたとあなたの後の子孫を増やそう。もしあなたが砂の数を数えることができるのであれば、あなたの子孫の数もそのようであろう。」

15 そして、主はわたしに言われた。「アブラハム、あなたがエジプトに入るに先立って、わたしはあなたにこれらのものを示す。それは、あなたがこれらの言葉をすべて告げるためである。

16 もし二つのものがあつて、一つが他よりも上位にあるとすれば、これらよりもさらに大いなるものがある。①コブは、あなたが見たすべてのコカーベアムの中で最も大いなるものである。それはわたしの最も近くにあるからである。

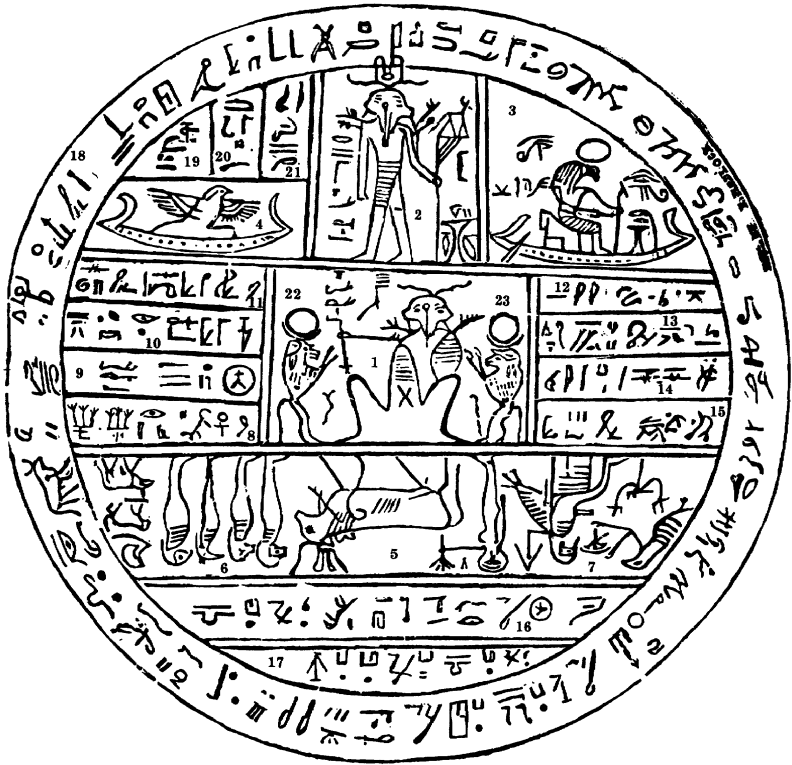
17 さて、もし二つのものがあつて、一つが他よりも上位にあり、月が地よりも上位にあるとすれば、それよりも上位にある遊星、あるいは星もある。主なるあなたの神が行おうと心にかけてことで、行わないことはない。

18 とはいえ、主はさらに大いなる星を造った。同じ

17 16
 ①① ①① ①①
 ヨブ 9:4-12
 アブ 3:3
 ホセ 1:10
 創世 12:5
 創世 13:8
 創世 13:16
 創世 13:17
 創世 13:18
 創世 13:19
 創世 13:20
 創世 13:21
 創世 13:22
 創世 13:23
 創世 13:24
 創世 13:25
 創世 13:26
 創世 13:27
 創世 13:28
 創世 13:29
 創世 13:30
 創世 13:31
 創世 13:32
 創世 13:33
 創世 13:34
 創世 13:35
 創世 13:36
 創世 13:37
 創世 13:38
 創世 13:39
 創世 13:40
 創世 13:41
 創世 13:42
 創世 13:43
 創世 13:44

アブラハム書からの模写

第二



説明

1. コロブ。最初の創造物を表すもので、日の栄えの世界、すなわち神の住まいの最も近くにある。これは支配においては第一、時の計算に於いては最後である。この計算は日の栄えの時によるもので、日の栄えの時の一日は一キュビトを表す。コロブにおける一日は、この地球の計算によれば千年に相当する。エジプト人はこれをヤーオーエーと呼ぶ。
 2. コロブの次にあり、エジプト人はこれをオリプリシユと呼ぶ。これは日の栄えの世界、すなわち神が住んでおられる所の近くにある、二番目の大いなる支配する力を持つ創造物である。これもほかの遊星に関する力の鍵を持つ。以上は、アブラハムが主のために築いた祭壇上で犠牲をささげたとき、神からアブラハムに示されたものである。
 3. 権威と権能をまとして御座に於いておられる神を表すものとして描かれている。また、頭に永遠の光の冠をかぶっておられる。これはまた、エデンの園でアダムに示され、セツヤノア、メルキゼデク、アブラハム、および神権が明らかにされたすべての者に示された、聖なる神権の大いなる鍵の言葉を表す。
 4. ヘプライ語のラーキーアンに相当し、天空、すなわち天の虚空を意味する。これはまた数字であつて、エジプト語で千を意味する。その回転において、また時の計算においてコロブに等しいオリプリシユの時の計算に相当する。
 5. エジプト語でエニシ・ゴ・オン・ドシと呼ばれる。これもまた支配する力を持つ遊星の一つであり、エジプト人はこれを太陽であつて、カエ・エ・パンラシを通じてコロブから光を受けていると言う。カエ・エ・パンラシは大いなる鍵、言い換えれば支配する力であり、他の十五の恒星すなわち星を支配し、また年々の回転においてフロイリスすなわち月と、地球と、太陽も支配する。この遊星は、クリ・フロス・イス・エス、またはハー・コ・カイ・ベアム、すなわちコロブの回転から光を受ける22および23の絵図で表されている星を通じてその力を受ける。
 6. この地球の四方を表す。
 7. 御座に於いておられる神を表し、諸天を通じて神権の大いなる鍵の言葉を示す。また、鳩の形を取つてアブラハムに降られた聖霊のしるしをも示す。
 8. 世の人に示すことのできない書き物を含む。しかし、神の聖なる神殿で得られるものである。
 9. 今は示されない。
 10. 今は示されない。
 11. 今は示されない。世の人がこれらの意味を解くことができるならば、解かせなさい。アーメン。
 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. これらについては、主の定められたときに明らかにされるであらう。
- 前述の翻訳は、現在明らかにして差し支えない範囲で明らかにされている。

ように、もし二つの霊がいて、一方が他方よりも英知に優れているとしても、一方が他方よりも英知に優れているにもかかわらず、これら二つの霊には初めがない。彼らは以前に存在しており、彼らには終わりがなく、彼らは後にも存在する。彼らはグノーラム、すなわち永遠だからである。」

19 主はわたしに言われた。「実にこれら二つの事実がある。すなわち、二つの霊がいて、一方が他方よりも英知に優れている。彼らよりもさらに英知の優れた別の霊がいる。わたしは主なるあなたの神であって、わたしは彼らすべてよりも英知が優れている。」

20 主なるあなたの神は天使を遣わして、エルケナの祭司の手からあなたを救い出した。

21 わたしは彼らすべての中に住んでいる。そして、わたしの手で造ったものをあなたに告げ知らせるために、わたしは今あなたのもとに降って来たのである。これにおいて、わたしの知恵は彼らすべてに勝っている。わたしはあらゆる知恵と思慮とをもって、あなたがその目で初めから見てきたすべての英知たちを、上は天で、下は地で治めているからで

ある。わたしは初めに、あなたの見たすべての英知たちの中に降って来た。」

22 さて、主はわたしアブラハムに、世界が存在する前に組織された英知たちを見せてくださった。そして、これらすべての中には、高潔で偉大な者たちが多くいた。

23 神がこれらの者を見られると、彼らは良かった。そこで、神は彼らの中に立って言われた。「わたしはこれらの者を、治める者としよう。」神は霊であったこれらの者の中に立って、見て、彼らを良しとされたからである。また、神はわたしに言われた。「アブラハム、あなたはこれらの者の一人である。」

あなたは生まれる前に選ばれたのである。」

24 そして、彼らの中に神のような者が一人立ち、ともにいた者たちに言った。「あそこに空間があるので、わたしたちは降って行こう。そして、これらの材料を取って、これらの者が住む地を造ろう。」

25 そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。

26 第一の位を守る者は付け加えられるであろう。

18 「グノーラム」とは、永遠を意味するヘブライ語の音訳である

19 ① イザ55・8・9、② GS「全知」

20 ① GS「アブ」15、② GS「知恵」モセ1・27・29

21 ① 教義88・45・47、② GS「英知」

22 ① GS「前世」天上の会議」② GS「英知」

23 ① イザ49・1・5、② GS「英知」

24 GS「選ぶ」

24 ① GS「長子、初子」② GS「地球、地」

24 人のために創造された」③ GS「創造、創造する」

25 ① 教義98・12・14、② GS「贖いの計画」

25 GS「贖いの計画」

26 「選択の自由」② GS「従順、従う」

26 ① KJユダ1・6

また、第一の位を守らない者は、第一の位を守る者と同じ王国で栄光を受けることはない。さらに、第二の位を守る者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられるであろう。」

27 また、主は言われた。「わたしはだれを遣わそうか。」すると、一人が人の子のように答えた。「わたしはここにいます。わたしをお遣わしてください。」また、別の者が答えて言った。「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。」そこで、主は言われた。「わたしは最初の者を遣わそう。」
28 すると第二の者は怒り、その第一の位を守らなかった。そして、その日、多くの者が彼に従った。

第4章

神々、地とその上のすべての生き物の創造を計画される。六日間の創造のための神々の計画が明らかにされる。

1 その後、主は、「降って行こう」と言われた。そして、彼らは最初に降って行き、彼らすなわち神々は、天と地を組織し、形造られた。

2 地は形造られた後、むなしく、荒涼としていた。

彼らが地のほかに何も形造つておられなかったからである。そして、闇が深い淵の面を支配し、神々の御霊が水の面を覆っていた。

3 彼ら（神々）は、「光あれ」と言われた。すると、光があつた。

4 彼ら（神々）はその光を知覚された。それが輝いていたからである。そして、彼らはその光を闇から分けられた、すなわち光が分けられるようにされた。

5 神々は光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕から朝までを夜と呼び、朝から夕までを昼と呼ばれた。これが、彼らが昼、夜と呼ばれたものの最初、すなわち初めであつた。

6 神々はまた言われた。「水の間に天空があつて、水と水を分けよ。」

7 神々は、天空の下にある水と天空の上にある水を分けるように天空に命じられた。すると、彼らが命じられたようになった。

8 神々はその天空を天と呼ばれた。夕から朝までを夜と呼び、朝から夕までを昼と呼びられた。これが、彼らが夜、昼と呼ばれた第二の時であつた。

26 GS 「死すべき状態」

27 GS 「神、神会」

28 GS 「栄光」

29 GS 「神、神会」

30 GS 「イエス・キリスト」

31 GS 「アノ子」

32 GS 「悪魔」

33 GS 「滅びの子」

34 GS 「滅びの子」

35 GS 「滅びの子」

36 GS 「滅びの子」

37 GS 「滅びの子」

38 GS 「滅びの子」

39 GS 「滅びの子」

40 GS 「滅びの子」

41 GS 「滅びの子」

42 GS 「滅びの子」

43 GS 「滅びの子」

44 GS 「滅びの子」

45 GS 「滅びの子」

46 GS 「滅びの子」

47 GS 「滅びの子」

48 GS 「滅びの子」

49 GS 「滅びの子」

50 GS 「滅びの子」

51 GS 「滅びの子」

52 GS 「滅びの子」

53 GS 「滅びの子」

54 GS 「滅びの子」

55 GS 「滅びの子」

56 GS 「滅びの子」

57 GS 「滅びの子」

58 GS 「滅びの子」

59 GS 「滅びの子」

60 GS 「滅びの子」

9 神々は命じて、「天の下の水は一つ所に集まり、地は乾いて現れよ」と言われた。すると、神々が命じられたようになった。

10 神々は乾いた地を陸と宣言し、水の集まった所を大海と宣言された。神々はそれらが従うのを見られた。

11 神々は言われた。「地を備えて、青草と、種を持つ草と、種類に従って自らの形を生じる種を持つ実を結び果樹を地の上に生えさせよう。」すると、神々が命じられたようになった。

12 神々は地を組織して、青草がその種から生えるようにし、また草がその種から生え、種類に従って種を生じるようにされた。また地を組織して、木をその種から生えさせ、種類に従って同じものみを生じる種を持つ実を結びようにされた。神々はそれらが従うのを見られた。

13 そして、神々は日を数えられた。夕から朝までを夜と呼び、朝から夕までを昼と呼びされた。それが第三の時であった。

14 神々は天の大空に光を組織して、それらに昼と夜とを分けさせ、またそれらを組織して、しるしの

ため、季節のため、日のため、年のためとならせ、またそれらを組織して、天の大空にあつて地を照らす光とならせられた。すると、そのようになった。

16 神々は二つの大きな光を組織して、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせられた。また、小さい光とともに明るもろの星も置かれた。

17 神々はこれらを天の大空に置いて地を照らさせ、昼と夜をつかさどらせ、光と闇とを分けさせられた。

18 神々は命じられたこれらのものが従うまで見守られた。

19 夕から朝まで夜があり、朝から夕まで昼があった。それが第四の時であった。

20 神々は言われた。「水を備えて、命を持つ生き物を豊かに生じさせ、また鳥が地の上、天の大空を飛ぶようにさせよう。」

21 神々は水を備えて、海の大なる獣と、水に群がるすべての動く生き物とをその種類に従って生じさせ、また翼のあるすべての鳥をその種類に従

9 ①アモ9:6、
モセ2:7
10 ①創世1:9
11 アブ4:22
11 ①創世11:12
14 モセ2:11
16 ①創世1:88
21 ①創世1:16
21 モセ2:21

つて生じさせられた。そして、神々はそれらが従うのを見、またその計画が良いのを見られた。

22 神々は言われた。「わたしたちはこれらを祝福して、生み、増え、海の水すなわち大海に満ちるようにさせ、また鳥も地に増えさせよう。」

23 そして、夕から朝までを、神々は夜と呼ばれた。また、朝から夕までを、昼と呼ばれた。それが第五の時であった。

24 神々は地を備えて、生き物をその種類に従って生じさせ、家畜と、這うものと、地の獣とをその種類に従って生じさせられた。そして、神々の言われたようになった。

25 神々は地を組織して、獣をその種類に従い、家畜をその種類に従い、また地を這うすべてのものをその種類に従って生じさせられた。神々はそれらが従うのを見られた。

26 神々は協議して言われた。「降って行って、わたしたちの形に、わたしたちにかたどって人を形造らう。そして、彼らに、海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべてのものと、地のすべての這うものを治めさせよう。」

27 そこで、神々は降って行って、御自分の形に人を組織し、神々の形に人を形造り、男と女に形造られた。

28 そして、神々は、「彼らを祝福しよう」と言われた。また、神々は言われた。「彼らに、生み、増え、地に満ち、地を従わせるようにさせよう。また、海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物を治めさせよう。」

29 また、神々は言われた。「見よ、わたしたちは全地の面に生える種を持つすべての草と、実を結ぶすべての木を彼らに与えよう。まことに、種を生じる木の実を彼らに与えよう。それは彼らの食物となるであろう。」

30 また地のすべての獣、空のすべての鳥、地を這うすべてのものに、まことに、命を与えよう。さらに、これらに食物としてすべての青草を与えよう。すべてこれらのものはこのようにして組織されるであろう。」

31 神々は言われた。「わたしたちは言ったことをすべて行い、これらを組織しよう。見よ、これらはよく従うであろう。」そして、夕から朝までを夜と呼

27 ① 創世 1:26-27
28 ① 創世 1:26-27
29 ① 創世 1:29-30
24 ① アブ 4:10
26 ① GS「神神空」
27 ① モセ 6:8-10
28 ① GS「人」

アブラハム書からの模写

第三



説明

1. 王の厚意こういによって、パロの王座おうぎに座すわっているアブラハム。その頭に神権かみごんを象徴する冠かんむりをかぶっている。これは天あまにおける大いなる管理会かんりかいを象徴するものである。また、彼はその手に公正こうせいと公平こうへいの笏しやくを持つている。
2. 王パロ。その名は頭上ずじょうの文字もじで示しめされている。
3. エジプトでのアブラハムを表す。模写第一の10でも与えられている。
4. エジプトの王パロの王子おうじ。手ての上に記しるされているとおりである。
5. シュレム。王の給仕頭きゅうじがしらの一人ひとり。その手の上の文字もじに表あらわされているとおりである。
6. オリムラ。王子おうじの奴隸どれい。

アブラハムは王の宮廷きやうていで天文学てんぶつがくの原理げんりを説といている。

び、朝から夕までを昼と呼ばれた。神々は第六の時を数えられた。

第5章

神々、万物の創造の計画を終えられる。神々、その計画に従って創造を成し遂げられる。アダム、すべての生き物に名を付ける。

1「このようにわたしたちは天と地と、その万象を完成しよう。」

2 神々は互いに言われた。「第七の時に、わたしたちの協議した業を終えよう。そして、第七の時に、わたしたちの協議したすべての業を離れて休もう。」

3 神々は第七の時に終えられた。第七の時に、神々は協議して形造つたすべての業を離れて休もうとされたからである。そして、それを聖別された。神々が天と地を形造ろうとして協議したときに決められたことは、このとおりであった。

4 これが、神々が降って来て、これらを形造られた天地創造の由来である。神々が地と天を形造られたとき、

5 すべて神々が言われたとおりに、野のすべての植物については、地にはまだそれが生えておらず、また野のすべての草も生えていなかった。神々がこれらを行うことを協議されたとき、地にまだ雨を降らせておらず、土を耕す人も形造つておられなかつたからである。

6 しかし、霧が地から立ち上つて、土の全面を潤した。

7 神々は土のちりりで人を形造り、彼の霊(すなわち、人の霊)を取ってそれを彼の中に入れて入れた。そして、命の息をその鼻に吹き入れられると、人は生けるものとなった。

8 神々は、東の方、エデンに一つの園を設けて、神々が先に形造つた体の中にその霊を入れた人をそこに置かれた。

9 また、神々は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土から生えさせ、さらに園の中央に命の木と善悪を知る木を生えさせられた。

10 エデンから流れ出る一つの川があつて園を潤し、それはそこから分かれて四つの川となった。

31 ① 出エ31:17
第5章
2 ① GS「安息日」
3 ① 出エ20:8-11、
モサ13:16-19
② ② 教義77:12
5 ① GS「霊の創造」
7 ① アブ4:26-31
② ② モセ4:25、6:59
③ ③ 創世2:7、
教義93:33、
GS「前世」「霊」
④ GS「人(霊業を持つ存在としての)」
8 ① GS「エデン」
9 ① GS「命の木」

を耕させ、これを守らせられた。
 12 神々はその人に命じて言われた。「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。
 13 しかし、善悪を知る木からは取って食べてはならない。あなたはそれを食べるときに、必ず死ぬからである。」さて、わたしアブラハムは、それが主の時、すなわちコロブの時に基づいているのを知った。神々はまだアダムに時の計算を定めておられなかったからである。
 14 また、神々は言われた。「この人のためにふさわしい助け手を造ろう。人が独りでいるのは良くないからである。それゆえ、わたしたちは彼のためにふさわしい助け手を形造ろう。」
 15 そこで、神々はアダムを深く眠らせられた。そして、彼が眠ると、神々は彼のあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。

16 神々は人から取ったあばら骨で一人の女を形造り、人のところへ連れて来られた。
 17 すると、アダムは言った。「これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉。今や、男から取ったものだから、これを女と呼ぼう。」
 18 それで、人はその父と母を離れて、妻と結び合い、二人は一体となるのである。
 19 人とその妻は、二人とも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。
 20 神々は野のすべての獣と、空のすべての鳥を土で形造り、アダムのところへ連れて来て、彼がそれらをどう呼ぶかを見られた。アダムがすべて生き物に与える名は、その名となるのであった。
 21 それでアダムは、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣に名を付けた。また、アダムにはふさわしい助け手が見つかった。

13
 1 2 ペテロ 3:8
 2 アブ 3:21-4
 3 「コロブ」
 4 「アダム」
 5 「エバ」
 6 教義 42:22、
 7 「結婚」

ジョセフ・スミス—マタイ

千八百三十一年に預言者ジョセフ・スミスに啓示された『聖書』の翻訳からの抜粋。マタイによる福音書第二十三章三十九節、および第二十四章。

イエス、間近に迫ったエルサレムの滅亡を予告される。イエス、人の子の再臨と悪人の滅亡についても話される。

1「わたしは言っておく。あなたがたは、『主の御名によって、天の雲の中をすべての聖なる天使たちとともに来られる方に、祝福あれ』と言うときまで、今から後わたしに会うことも、わたしが預言者たちによって書き記された者であることを知ることもないであろう。」そのとき、イエスの弟子たちは、イエスが栄光を受けて神の右で冠を受けられた後、再び地上に来られるということを理解した。

2そして、イエスが神殿から出て行かれると、弟子

たちがイエスの言葉を聞きこうとして近寄って来て言った。「先生、あなたは、『これらは崩され、荒れ果てるに任されるであろう』と言われましたが、この神殿の建物についてわたしたちにお示しください。」

3そこで、イエスは彼らに向かって言われた。「あなたがたは、これらすべてのものを見て、それが分からないのか。よく言っておく。この神殿では、その石が一つでも崩されずに他の石の上に残ることはないであろう。」

4 イエスは彼らを後に残し、オリブ山に登られた。そして、オリブ山で座っておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「どうぞお話しください。あなたが神殿の滅亡とユダヤ人について言われたこれらのことは、いつ起こるのでしょうか。あなたがおいでになる時や、世の終わり、すなわち、世の終わりである悪人の滅亡には、どのようなしがありますか。」

5 そこで、イエスは答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。」

6 多くの者がわたしの名を名乗って現れ、『わたしがキリストだ』と言って、多くの人を惑わすである

ジョセフ・スミス—マタイ
第1章

1 ① マタ 26、64、

使徒 1、11

2 ② GS「神・神会」

3 ① ルカ 19、44

4 ① GS「オリブ山」

② GS「イエス、

キリストの再臨」

③ GS「世の

終わり」

④ マラ 4、1、

教義 133、64、74、

GS「邪悪」

⑤ ルカ 21、7、36、

教義 45、16、75、

GS「終わりの時、

末日」

「時のしるし」

れば、聖約による選民である真の選民をも惑わそうとするであろう。

23 見よ、選民のために、わたしはあなたがたにこれらのことを語るのである。あなたがたはまた、戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。あわてないうように気をつけなさい。わたしがあなたがたに告げたことはすべて、必ず起こるからである。しかし、まだ終わりではない。

24 見よ、わたしはあなたがたに前もって話した。

25 だから、人々が、『見よ、彼は荒野にいる』と言つても、出て行つてはならない。『見よ、奥の部屋にいる』と言つても、信じてはならない。

26 ちょうど朝の光が東から出て、西に照り、全地を覆うように、人の子も来るからである。

27 さて、わたしはあなたがたに一つのたとえを示そう。見よ、死体のある所には、はげたかが集まるものである。それと同じように、わたしの選民は地の四方から集められるであろう。

28 そして、彼らは戦争と戦争のうわさを聞くであろう。

29 見よ、わたしは、わたしの選民のために語る。民

は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉と疫病と地震があるであろう。

30 さらにまた、不法がはびこるので、人々の愛が冷えるであろう。しかし、打ち負かされない者は救われる。

31 さらにまた、この王国の福音は、すべての民への証として、全世界に宣べ伝えられるであろう。それから、終わり、すなわち悪人の滅亡が来るのである。

32 そして、荒らす憎むべき者について預言者ダニエルによって言われたことが、再び成就するであろう。

33 それらの日の艱難の後すぐに、太陽は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は天から落ち、天の力は揺り動かされるであろう。

34 よく言っておく。わたしがあなたがたに告げたとすべてのことが成就するまでは、これらのことが示されるこの時代は過ぎ去ることがない。

35 天地の過ぎ去る日は来るが、それでもわたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就するであろう。

23 ① GS「選民」
 26 ② エゼ43・26
 27 GS「イスラエル」
 29 ① イスラエルの集合
 31 ① 教義43・24
 33 ① マタ28・19
 35 ① ヨエ2・10、20
 ① 教義29・14
 ① 教義1・38

36 前に言ったように、それらの日に艱難があり、天の力が揺り動かされた後、人の子のしるしが天に現れるであろう。そのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光をもって人の子が天の雲の中を来るのを見るであろう。

37 だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない。人の子は来て、大きなラッパの音とともに天使たちを先立って遣わすであろう。すると天使たちは、天の果てから果てまで、四方から選民の残りの者を呼び集めるであろう。

38 いちじくの木から、たとえを学びなさい。その枝がまだ柔らかで、葉を出し始めると、夏の近いことが分かる。

39 そのように、わたしの選民は、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていることが分かるであろう。

40 しかし、その日、その時は、だれも知らない。天にいる神の天使たちも知らない。ただ父だけが知っておられる。

41 人の子の来臨の時も、ちょうどノアの時代と同じようである。

42 人々は、洪水の前の日々のような状態であろう。ノアが箱船に入る日まで、人々は食べたり、飲んだり、めとったり、嫁いだりしていた。

43 そして、洪水が襲ってきて、すべてのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の来臨もそのようであろう。

44 そのとき、記されていることは成就するであろう。すなわち、終わりの時には、二人が畑にいると、一人は取り去られ、一人は残される。

45 二人が白をひいていると、一人は取り去られ、一人は残される。

46 わたしは一人に言うことを、すべての人に言う。だから、目を覚ましていなさい。いつあなたがたの主が来るか、あなたがたには分からないからである。

47 このことをわきまえていなさい。家の主人は盗人がいつごろ来るか分かっていたら、目を覚ましていて、自分の家に押し入れられるのを許すことなく、用意をしていたであろう。

48 だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけないときに人の子は来るからである。

36 ① ジーマウキ 1:18

② GS 「イエス・

キリストの再臨」

37 ① GS 「聖文」

② 教義 29:11-15

③ GS 「イスラエル」

④ GS 「イスラエルの集合」

38 ① 教義 35:16

② 教義 39:20-21

40 ① GS 「創世 6:5

41 ① GS 「終わりの時、

末日」

44 ② セカ 13:8

46 ① GS 「見守る、

見守る者」

49 主人がその家の僕たちの上に立てて、時に応じて食物を備えさせる忠実な思慮深い僕は、一体だれであろうか。

50 主人が帰って来たとき、そのように務めているのを見られる僕は幸いである。よく言っておく。その主人は、彼に自分の全財産を管理させるであろう。

51 しかし、それが悪い僕であって、『主人は帰りが遅い』と心の中で思い、

52 その僕仲間をたたき始め、また酒飲み仲間と一緒に食べたり飲んだりしているなら、

53 その僕の主人は、思いがけない日、気がつかない時に帰って来て、

54 彼を厳罰に処し、偽善者たちと同じ目に遭わせるであろう。彼はそこで涙を流し、歯ざしりをするであろう。

55 このように、『彼らは民の中から絶たれるであろう』というモーセの預言のとおり、悪人の終わりが来る。しかし、世の終わりはまだであって、それはやがて来る。」

55 54 51 49
 ① ① ① ① GS 「信頼」
 教義 1:9、10、29、17
 1:10、29、17
 2ニフ8・12
 マタ8・12
 教義45・26

ジョセフ・スミス—歴史

預言者ジョセフ・スミスの歴史からの抜粋

ジョセフ・スミス、自分の先祖と家族と、家族が以前に住んでいた所について述べる。宗教についての異常な騒ぎがニューヨーク州西部に広がる。ジョセフ・スミス、ヤコブより指示されたとおりに知恵を求めるところを決心する。御父と御子が現れ、ジョセフは預言者の務めに召される。(第一—二十節)

①末日聖徒イエス・キリスト教会の起りりと発展に関して、たちが悪く腹黒い人々によって、多くのうわさが広められてきた。これらすべてのうわさは、その扇動者たちがこの教会の教会としての名声と世における発展とを損なおうと企てたものである。そのために、わたしはこの歴史を書くに至った。それは、世間の考えを正すためであり、また、真相を知ろうとするすべての人に、わたしが事実を

知っている範囲で、わたし自身と教会の両方に関してその事実を起こつたとおりに知らせるためである。

2 この歴史の中で、わたしは、真実かつ公正にこの教会に関する様々な出来事を、それらが起こつたとおりに、あるいは現在あるとおりに述べよう。今や、この教会が組織されて八年目(千八百三十八年)である。

3 わたしは主の千八百五年十二月二十三日に、バールモント州ウインザー郡シャロンの町で生まれた。

……わたしの父ジョセフ・スミス・シニアはバールモント州を去つて、ニューヨーク州オンタリオ郡(現在のウエイン郡)パルマイラに移り住んだ。当時、わたしは十歳くらいであった。父はパルマイラに着いてから約四年たつて、家族とともに、同じオンタリオ郡内のマンチエスターに移つた。

4 家族は十一人から成つていた。それは、父ジョセフ・スミス、母ルーシー・スミス(母の結婚前の姓はマッククといい、ソロモン・マッククの娘であった)、兄弟たち、すなわちアルビン(千八百二十三年十一月十九日、二十五歳で死去)、ハイラム、わ

ジョセフ・スミス—歴史
第1章

- 1 ① GS 「末日聖徒イエス・キリスト教会」
- 2 ② GS 「福音の回復」
- 3 ① GS 「スミス、ジョセフ、ジュニア」
- 4 ② 2コリ3:15
- 4 ① GS 「スミス、ジョセフ、シニア」
- ② GS 「スミス、ルーシー・マックク」
- ③ 教義137:5-6
- ④ GS 「スミス、ハイラム」

たし自身、サミュエル・ハリソン、ウィリアム、ドン・カロス、それに姉妹たち、すなわちソフロニア、キャサリン、およびルーシーであった。

5 マンチエスターに移り住んでから二年目のあるとき、わたしたちが住んでいた地域に宗教に関する異常な騒ぎがあった。それはメソジスト教徒から始まったが、間もなく広くその地域内のすべての教派に及んだ。実に、その地方全体がそれに影響されたようであった。そして、大勢の群衆が様々な教派に加わり、それが人々の間にただならぬ騒ぎと分裂を引き起こした。「見よ、ここだ」と叫ぶ人がいれば、「見よ、そこだ」と叫ぶ人もいた。ある人はメソジスト派の教えを、ある人は長老派の教えを、またある人はバプテスト派の教えを擁護して論争していた。

6 これら様々な教派に転じた改宗者たちは、改宗のときに深い愛を表明し、また、この尋常でない宗教的感情の場面を引き起こし助長するに深くかかわった牧師たちは、すべての人を改心させるために、どこでも自分の好む教派に加わりなさいと言って、大いなる熱意を表した。にもかかわらず、

改宗者たちのある人々はある教派、またある人々は別の教派というように所属が定まり始めると、牧師たちと改宗者たちの好ましく見えた感情は、真実ではなく偽りであるように思われた。牧師が牧師と、改宗者が改宗者と言い争うひどい混乱と悪感情の場面がこれに続き、その結果、すべてお互いの好感情は、もしかつて幾らかでもそのようなものがあつたとしても、今は言葉の争いと見解についての論争ですっかり失われてしまったからである。7 わたしは当時十四歳であつた。父の家族は長老派の教えを受け入れ、そのうちの四人、すなわち母のルーシー、兄弟のハイラムとサミュエル・ハリソン、および姉のソフロニアがその教会に加はつた。

8 このひどい騒ぎの間、わたしは心の中で深く考えさせられ、大きな不安を感じないではいられなかつた。しかし、わたしの気持ちに深く、またしばしば痛烈に感じるものがあつたにもかかわらず、なおわたしはこれらすべての教派から遠ざかつていた。それでも、機会があることに、彼らのいろいろな集まりには出席した。そうするうちに、わたしの心は

4 ⑤ GS「スミス、
サミュエル・H」
5 ① マタ24
6 ①「争い」

ややメソジスト派に傾き、彼らに加わりたいとかなり望むようになった。しかし、様々な教派間の混乱と争いが非常に激しかったので、わたしのようにならば、世間のことを知らない者にとつて、だれが正しく、だれが間違っているか、確かな結論を出すことは不可能であった。

9 わたしの心は時々ひどくかき乱され、叫び声と騒ぎの渦は熾烈なもので絶えることがなかった。長老派の人々は、バプテスト派の人々とメソジスト派の人々に断固反対し、あらんかぎりの理屈と詭弁の力を用いて彼らの誤りを立証しよう、あるいは少なくとも彼らは誤っていると人々に思わせようとした。他方、バプテスト派の人々とメソジスト派の人々は、彼らは彼らで、同じくらい熱心に、彼ら自身の教義を確立して他がことごとく誤っていることを立証しようとする。

10 この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中にあって、わたしはしばしば心に問うた。「何をしなければならぬのだろうか。これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれ

かが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。」

11 これら宗 教家たちの論争によつて引き起こされた、極度に難しい事情の下で苦しんでいたある日のこと、わたしは、ヤコブの手紙第一章五節を読んでいた。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」

12 この聖句が、このとき、かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝つて、わたしの心に力強く迫つて来たのであった。それはわたしの心の隅々に大きな力が入り込んで来るように思われた。もしかか神からの知恵を必要とする者がいるとすれば、それは自分であることを悟つて、わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした。なぜならば、わたしはどうしてよいか分からず、また自分がそのときに持っていた知恵よりも深い知恵を得られなければ、どのように行へべきかまったく分からなかったからである。それというのも、様々な教派の教師たちは同じ聖句を異なつて解釈し、その結果、『聖書』に

訴えて疑問を解決することへの信頼をすべて打ち砕いてしまっていたからである。

13 とうとうわたしは、暗闇と混乱の中にとどまるか、それともヤコブが指示しているとおりに行うか、すなわち神に願いを求めるか、どちらかにしなければならぬという結論を出すに至った。わたしはついに「神に願いを求め」ようと決意した。もし神が知恵に不足している者に知恵を与え、しかもとがめもせず、惜しみなく与えてくださるならば、思い切って願いを求めてみるべきだと結論づけたのである。

14 そこで、神に願いを求めるというこの決心に従って、わたしはこれを実行するために人目を避けて森に入ってしまった。それは千八百二十年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。わたしがこのようなことを行おうとしたのは、生涯で初めてであった。わたしは不安のままただ中にあっても、声に出して祈ろうとしたことはまだ一度もなかったからである。

15 わたしは前もって決めておいた場所に人目を避けて行き、辺りを見回し、自分一人であることを確かめると、ひざまずいて、心の願いを神に告げ始め

た。わたしがそうし始めるやいなや、すぐにわたしは何かの力に捕らえられた。その力は完全にわたしを圧倒し、わたしの舌をしばれさせるほどの驚くべき力を振るったので、わたしは物を言うこともできなかつた。深い闇がわたしの周囲に集まり、一時はあたかも突然の滅びを宣告されたかのように思われた。

16 しかし、わたしは自分を捕らえたこの敵の力から救い出してくださるようにと、あらんかぎりの力を尽くして神に呼び求めた。すると、わたしが今にも絶望し、破滅に身を任せようとしたその瞬間、すなわち想像上の破滅ではなく、目に見えない世界から来た実在する何者かの力、わたしがこれまでいかなる者にも一度も感じたことのないほどの驚くべき力を持った者の力に身を任せようとした瞬間、この非常な恐怖の瞬間に、わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

17 それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。そして、その光

がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」と言われた。

18 わたしが主に伺いしようとした目的は、自分が加わるべき教派を知るため、すべての教派のうちのどれが正しいかを知ることであつた。そこで、わたしは我に返つて物を言えるようになるやいなや、わたしの真上で光の中に立っておられた方々に、すべての教派のうちのどれが正しいか（当時は、すべての教派の間違つていふことなど、わたしの心に思い浮かびもしなかつたからである）、また自分はどれに加わるべきかを伺つた。

19 すると、それらのどれにも加わつてはならない、すべて間違つてゐるからである、とのお答えであつた。また、わたしに話しかけられた御方は、彼らの信条はことごとくその目に忌まわしいものであり、信仰を告白するそれらの者たちはすべて腐敗しており、「彼らは唇をもつてわたしに近づくが、

その心はわたしから遠く離れている。彼らは人の戒めを教義として教え、神を敬うさまをするけれども神の力を否定している」と言われた。

20 その御方は再びわたしに、それらのどれにも加わることを禁じられた。また、ほかにも多くのことをわたしに言われたが、今はそれを書くことができな。わたしは再び我に返ると、自分が天を見上げて仰向けに横たわつてゐるのに気づいた。光が去つた後、わたしには力がなかつた。しかし、間もなくある程度力を取り戻したので、家に帰つた。そして、暖炉に寄りかかつてゐると、母がどうしたのかと尋ねた。そこでわたしは、「何でもありません。大丈夫です。元氣です」と答えた。それから、わたしは母に、「長老派の教えは真実でないことが自分で分かりました」と言つた。敵対する者が、わたしの生涯のきわめて早い時期に、わたしが彼の王国を妨げ悩ます者になると定められていたことに気づいたかのように思われる。そうでなければ、どうして闇の力がわたしに敵対して連合したのであるか。どうしてわたしがまだ幼いときに、わたしに對して反対と迫害が起こつたのか。

17

GS「栄光」

② 使徒7:55-56、

コロ3:1、

GS「神、神会」

④ GS「示現」

③ マツ3:17、17:5、

3ニフ11:7、

GS「イエス・

キリスト」

① 教義6:11、46:7

GS「普教、普信—過去のキリスト教会における普教」

② イザ29:13-14、

エゼ33:30-31、

③ GS「普教、普信—

一般的な普教」

④ テト1:14、

教義45:29、

⑤ 2テモ3:5

20 GS「悪魔」

② 2ニフ2:11、

教義58:21-4、

GS「逆境」

ある説教者たちと信仰を告白するほかの者たちは、最初の示現の話を拒絶する。幾多の迫害がジョセフ・スミスに及び、彼は示現が事実であったことを証する。(第二十一—二十六節)

21 わたしはこの示現を受けてから数日後、前に述べた宗教上の騒ぎの中で盛んに活動をしていたメソジスト派の説教者の一人とたまたま一緒になった。そして、宗教のことについて彼と語るうちに、わたしは、その機会をとらえて、自分の受けた示現の話をした。ところが、わたしは彼の振る舞いにひどく驚いた。彼はわたしの話を軽くあしらった

だけでなく、ひどく軽蔑した調子で、それはすべて悪魔から出たものであって、この時代に示現や啓示のようなものはなく、そのようなものはすべて使徒たちで終わっており、今後決してそのようなものはない、と言った。

22 しかし、それから間もなく、わたしがその話をしたことが、信仰を告白する人々の間にわたしに対する大きな偏見を引き起こし、ひどい迫害の原因となったことを、わたしは知った。そして、迫害は

増し続けた。わたしはたかが十四、五歳の名もない少年であり、生活の状況からいっても世の人々の中で取るに足りない少年であったにもかかわらず、地位のある人々はわたしに目を留めて、一般の人々の心をわたしに敵対するようにあおり、激しい迫害を引き起こそうとしたのである。これはすべての教派に共通したことで、すべてが連合してわたしを迫害したのであった。

23 当時、真剣に考えさせられ、またそれ以来しばしば考えさせられてきたことであるが、十四歳を少し超えたばかりの名もない少年、それも日々の労働によってわずかな生活費を得なければならぬ定めにおかれた少年が、当時最も評判の良い教派に属する偉い方々の注意を引き、最も激しい迫害と悪口雑言を浴びせようとする思いを彼らの中心に起こすほどの重要人物と思われようとは、何とも不思議なことである。しかし、不思議であろうとなく、それは事実であり、しばしばわたし自身にとつてひどい悲しみの種となった。

24 しかしながら、それでもわたしが示現を見たことは事実であった。わたしはそれ以来、自分はパ

21 GS 「最初の示現」
 ① GS 「示現」
 ② GS 「啓示」
 22 「新ヤコブ 5:10-11」
 ① GS 「パウロ」
 24 アル 37:35
 ② 同上 16:7

ウロによく似た心境であると思つてきた。彼はアグリッパ王の前で弁明し、自分が示現を受けて光を見、声を聞いたことを話した。それでもなお、彼を信じた者はほとんどなかった。ある者たちは彼は不正直だと言ひ、ほかの者たちは彼は気が狂つてゐると言つた。そして、彼はあざけられ、ののしられた。しかし、すべてこのことも、彼が示現を受けたという事実を損なうことはなかつた。彼は示現を見た。彼はそのことを知つており、天の下のあらゆる迫害も、その事実を変えることはできなかった。たとへ迫害されて死に至るうとも、それでも彼は、自分が光を見、自分に語りかける声を聞いたことを知つていたのであり、最後の息まで知つていたことだろう。全世界も、彼にそうでないと考えさせ、信じさせることはできなかった。

25 わたしについても同じであつた。わたしは実際に光を見た。その光の中に二人の御方を見た。そして、その方々が実際にわたしに語りかけられたのである。たとへ示現を見たと言つたことで憎まれ、迫害されたとしても、それは眞実であつた。そして、そのように言つたことで、人々がわたしを迫害し、

わたしをのしり、わたしに対して不当にあらゆる悪口を浴びせているとき、わたしはこのように心の中で言うようになった。「眞実を告げたことで、なぜわたしを迫害するのか。わたしは実際に示現を見た。どうしてわたしは神に逆らえようか。なぜ世の人々はわたしが実際に見たものを否定させようとするのか。」わたしは示現を見た。わたしはそれを知つてゐた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知つてゐた。わたしはそれを否定できず、またさうする勇氣もなかつた。少なくともわたしは、そのようにすれば自分が神に対して罪を犯し、罪の宣告を受けるということを知つてゐた。

26 教派社会に関するかぎり、わたしは今や心に満足を得てゐた。すなわち、それらのどれにも加わる義務はなく、次の指示があるまでそのままいればよかつたのである。わたしはヤコブの証が眞実であることを知つた。すなわち、知恵に不足している者は神に願ひ求めることができ、さうすればとがめを受けることなく知恵を得られる、と。

モロナイ、ジョセフ・スミスに現れる。ジョセフの名

は良くも悪くもすべての国民の中で知られるようになる。モロナイ、『モルモン書』と来るべき主の裁きについて彼に告げ、また多くの聖句を引用する。金版の隠し場所が明らかになる。モロナイ、引き続き預言者を教える。(第二十七—五十四節)

27 わたしは千八百二十三年九月二十一日まで、この世の普通の仕事に従事していた。その間ずっと、宗教心のある人から宗教心のない人かを問わず、あらゆる階級の人々から容赦のない迫害を受けていた。わたしが示現を見たことを断言し続けたからである。

28 示現を受けたときから千八百二十三年までの間、わたしは当時のどの教派にも加わることを禁じられており、非常に未熟な年齢でもあって、本来ならばわたしの友となり、わたしを優しく扱い、もしもわたしが悪わされていると思つたならば、適切な愛情に満ちた方法でわたしを改心させるように努めて当然であった人々によって迫害されたため、わたしはあらゆる誘惑を受けるに任された。また、わたしはいろいろな人々と交わって、しばしば多くの愚

かな誤りを犯し、若者としての弱さと人間性の至らなさを示した。遺憾ながら、このために神の目になわなない様々な誘惑に誘い込まれた。この告白をしたからといって、わたしが何か大きな罪、すなわち憎むべき罪を犯したと思うには及ばない。このような罪を犯す性質など、決してわたしにはなかつた。しかし、わたしは軽率な行動をし、時には陽気な仲間と交わるなどとして、わたしのように神から召されたものが当然保つべき性格に一致しない行動をした。しかし、わたしの若いころを思い出し、わたしの生来の陽気な気質を知っている人には、このことはそれほど不思議には思われないであろう。

29 これらのことの結果、わたしはしばしば自分の弱さと不完全さのゆえにとがめを感じた。そして、前に述べた九月二十一日の夜のことである。わたしはその夜、床に就いた後、全能の神に、わたしのすべての罪と愚かな行いを赦してくださるようになり、また神の前における自分の状態と立場を知るために示しを下さるようになり、祈って嘆願した。以前に受けたように、神の示しを頂けるといふ十分な確信があつたからである。

28 ① GS 「誘惑」
② GS 「召し」
③ GS 「祈り」

30 わたしはこのように神に呼び求めていたとき、室内に光が現れたのに気づいた。その光は次第に明るさを増し、ついにその部屋は真昼の時よりも明るくなった。すると、すぐに一人の方がわたしの寝台の傍らに現れ、空中に立たれた。というのは、その足が床から離れていたからである。

31 その方はこの上なく美しい白さの、ゆつたりとした衣を着ておられた。それは、わたしがこれまで見たこの世のいかなるものにも勝る白さであった。この世のいかなるものも、これほど白く輝いて見えるようにすることはできないと思う。その方の手はあらわで、衣の袖は手首の少し上までで、その足もあらわで、衣の裾は足首の少し上までしかなかった。その頭と首も覆われていなかった。その方の胸が見えるほど衣がゆつたりとしていたので、わたしはその方がその衣のほか何も着ておられないのに気づいた。

32 その衣が非常に白かっただけでなく、その全身も筆紙に尽くし難い輝きに満ち、その顔はまことに稲妻のようであった。部屋は非常に明るかったが、その方のすぐ周りほど明るくはなかった。わたしは最

初にその方を見たときに恐れしたが、その恐れはすぐに去った。

33 その方はわたしの名を呼び、自分は神の前から遣わされた使者であること、その名はモロナイであること、神がわたしのなすべき業を備えておられること、またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られることをわたしに告げられた。

34 その方はまた、この大陸の先住民の話と彼らの起源を伝える、金版に記された書が隠されていることも告げられた。また、それには救い主がその昔の住民に述べられたままに完全な永遠の福音が載っていることも告げられた。

35 また、銀のつるにはめた二つの石も版とともに隠されていること—これらの石は胸当てに付けてあって、ウリムとトンミムと呼ばれるものを成す—これらの石を所有して使った者が昔すなわち前の時代の「聖見者」となったこと、ならびにその書を翻訳するために神がそれらを備えてくださったことを、その方は告げられた。

30 ① GS「天使—モロナイ—モルモンの息子」

31 ① 使徒 10:30、1ニフ 8:5、3ニフ 11:8、

32 ① 3ニフ 19:25、GS「栄光」

② 出エ 34:29-35、ヒラ 5:36、

③ 出エ 3:6、

④ エテ 3:6、8、19

33 ① 出エ 33:12、17、

イザ 45:3、4

34 ① GS「金版—GS「マルモン書」

② GS「福音の回復」

35 ① レビ 8:8、

② 出エ 28:30、

③ GS「ウリムとトンミム」

④ GS「聖見者」

36 その方はこれらのことをわたしに告げられた後、『旧約聖書』の預言を引用し始められた。最初にマラキ書の第三章の一部を引用し、またわたしたちの『聖書』に言われているのは少し異なるが、同じ預言の第四章、すなわち最後の章も引用された。わたしたちの『聖書』にあるとおりに第一節を引用する代わりに、次のように引用された。

37 「見よ、焔のように燃える日が来る。すべて高ぶる者と悪を行う者は、わらのように燃える。やがて来る者たちが彼らを焼き尽くして、根も枝も残さない、と万軍の主は言う。」

38 さらにまた、その方は第五節を次のように引用された。「見よ、主の大きいなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。」

39 また、その次の節を言葉を変えて引用された。「彼れ先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。」

40 これらに加えて、その方はイザヤ書の第十一章を

引用し、それはまさに成就しようとしていると言われた。また、使徒行伝第三章二十一、二十三節も、まさにわたしたちの『新約聖書』にあるとおりに引用された。その方は、その預言者とはキリストのことである、しかし、「彼の声を聞きこうとしない者は民の中から絶たれるであろう」というその日はまだ来ていないが、間もなく来る、と言われた。

41 その方はまた、ヨエル書の第二章も第二十八節から最後まで引用された。そして、これはまだ成就していないが、間もなく成就する、と言われた。さらに、異邦人が満ちみちる恵みにあずかる時代が間もなく来ることを告げられた。その方はほかに多くの聖句を引用し、多くの説き明かしをされたが、ここで述べることはできない。

42 さらに、わたしがその方の語つたその版を受け取るとき—というのは、それを手に入れる時はまだ来ていなかったからである—その版や、ウリムとトンミムの付いた胸当てを、それらを見せるように命じられた人々のほかにはだれにも見せてはならない、もしも見せたならば滅ぼされる、とその方はわたしに告げられた。その方が版についてわたしと語

36 ① GS「旧約聖書」
 ② GS「マラキ」
 ③ 3ニフ25章、
 教義64・23・24
 GS「地球（地）—地球の清め」
 「世—世の終わり」
 ② GS「イエス・キリストの再臨」
 ③ ナホ1—9、10、
 1ニフ22・15、23、
 2ニフ26・41・6、
 教義29・9
 38 ① 教義27・9、
 GS110・13・16、
 GS「エリヤ」
 ② GS「神権」
 「神権の鍵」
 39 ① ガラ3・8、
 ② GS「系図」
 「死者の救い」
 40 ① 申命18・15・19
 ② 3ニフ20・23、
 21・20
 41 ① 使徒2・16・21
 ② ロマ11・11・25、
 教義88・84
 GS「異邦人」

つておられる間に、わたしの心に示現が開かれ、わたしはその版の隠されてある場所を見ることができた。そして、それは非常に明瞭ではつきりとしていたので、そこを訪れたときにはその場所が分かった。

43 この指示を受けた後、わたしが見ると、室内の光はたちまち、わたしに語っておられたその方の周りに集まり始めた。そして、光は集まり続け、その方のすぐ周りを除いてついにその部屋は再び暗くなった。その途端に、わたしが見ると、あたかも一筋の道が天に向かつてまっすぐに開いたかのようで、その方は昇って行かれ、ついにその姿がまったく見えなくなつた。そして、その部屋は、この天の光が現れる前の状態に戻つた。

44 わたしはその奇異な有様をつくづくと考え、またこの常ならぬ使者によつて告げられたことを不思議に思いながら横になつていた。このように思いにふけていゝる最中に、わたしは、突然部屋が再び明るくなり始めたのに気づいた。そして、あたかも突然であるかのように、同じ天の使者が再びわたしの寝台の傍らにおられた。

45 その方は語り始め、最初に訪れたときに述べたこととまったく同じことを少しも変えずに再び述べられた。それを述べた後、飢饉と戦争と疫病によるひどい荒廃を伴つて地上に來ようとしている大きな裁きについてわたしに告げ、またこれらの厳しい裁きがこの時代に地上に來ることを告げられた。これらのことを述べた後、その方は再び前と同じように昇って行かれた。

46 このときには、心に受けた印象が非常に深かつたので、わたしは目がさえて眠れなくなつており、見たり聞いたりしたことへの驚きに圧倒されて横になつていた。ところが何とも驚いたことに、わたしはまたもや寝台の傍らに同じ使者を見、その方が前と同じことをわたしに詳しく語られるのを、すなわち、再び繰り返して語られるのを聞いたのである。そして、その方はわたしに一つの警告を加え、(父の家族は貧しい暮らしをしていたので) 金持ちになるために版を手に入れるように、サタンがわたしを誘惑しようとするであろうと告げられた。そしてその方は、このようなことのないようにわたしに命じ、版を手に入れるに当たっては神の栄光を現す

46 44 42
 ② ① ① ① ①
 GS GS GS GS
 「誘惑」 「惡魔」 「深き」 「思ひ、心」

以外の目的を心に抱いてはならないこと、また神の王国を築こうとする動機以外のいかなる動機にも左右されてはならないこと、そうでなければそれを手に入れることはできないことを告げられた。

47 この三度目の訪れの後、その方は前のようにまた天に昇って行かれた。そして、わたしはたつた今経験したことの不思議さをまた深く考え続けた。その天の使者が三度目にわたしを離れて昇って行かれたのとほとんど同時に、鶏が鳴いたので、わたしは夜明けの近いことを知った。したがって、わたしは一晚中その使者と会見していたことになる。

48 わたしはその後間もなく起きて、いつものように、その日にしなければならぬ仕事に出かけた。しかし、わたしは普段のように働こうとしたが、まったく働けないほど疲れ果てているのを知った。わたしと一緒に働いていた父は、わたしの具合が悪いのに気づき、家に帰るように言った。そこで、わたしは家に帰ろうとして出かけた。しかし、囲いを越えて畑から出ようとしたときに、すっかり力を失ってぐったりと地に倒れ、しばらくの間まったく意識を失っていた。

49 わたしが思い出せる最初のこととは、わたしの名を呼んで、わたしに語りかける声があったことである。見上げると、あの同じ使者が前のように光に包まれて、頭上に立っておられるのが見えた。それからその方は、前夜わたしに話したすべてのことを再びわたしに話し、父のところへ行つて、わたしが受けた示現と命令のことを告げるようにと命じられた。

50 わたしはそれに従い、畑にいた父のところへ戻つて、父にすべてのことを詳しく告げた。すると、父はわたしに、それは神から出ていると答え、その使者から命じられたとおりにするように告げた。わたしは畑を去つて、版が隠されていると使者から告げられた場所へ行つた。すると、それに関して受けていた示現が明瞭であつたので、そこに着くとすぐにその場所が分かつた。

51 ニューヨーク州オンタリオ郡マンチエスターの村の近くに、かなりの大きさの丘が一つある。そこはその界わい切つての高い丘である。この丘の頂上から遠くない西側の所にかんりの大きさの石があつて、その石の下にあつた石の箱の中に版が置かれ

49 46
① ③ 教義 121 37
ジョセフ・スミス、
GS アケモラの丘

ていた。この石は厚みがあつて、上部の中央が丸みを帯びており、へりに行くに従つて薄くなつていたので、その中央部は地上に見えていたが、へりはすべて土に覆われていた。

52 わたしは土を取り除いて、てこを一本手に入れた、それをその石のへりの下に差し込んで、わずかな力でそれを持ち上げた。中をのぞき込むと、あの使者から言われたように、実際にそこに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てが見えた。それらが納められていた箱は、ある種のセメントの中に石を置いて造つたものである。箱の底には、横向きに二個の石が置かれ、その石の上に版とその他の物が一緒に載せられていた。

53 わたしはそれらを取り出そうとしたが、あの使者に止められた。そして、それらを出す時はまだ来ないことを再び知らされた。また、そのときから四年たたないと、その時は来ないとのことであつた。その方はわたしに、そのときからちょうど一年目にその場所に来るように、そうすれば彼がわたしに会つてくださること、また版を手に入れる時が来るまでわたしはそれを続けなければならないことを

告げられた。

54 それで、わたしは命じられたとおりに、一年ごとにそこへ行き、その度にあの使者にお会いした。そして、お会いする度に、主が何を言おうとしておられるか、また終わりの時に主の王国がどのように指導されるべきかに関して、その方から指示と知らせとを受けた。

ジョセフ・スミス、エマ・ヘイルと結婚する。ジョセフ・スミス、モロナイから金版を受け取り、幾らかの文字を翻訳する。マーティン・ハリスはアンソン教授に文字と翻訳を見せ、アンソン教授は、「わたしは封じられた書を読むことはできない」と言う。(第五十五—六十五節)

55 わたしの父の暮らし向きは非常に窮屈であつたので、わたしたちは必要に迫られて自分の手で働き、機会あるごとに日雇いの仕事やその他で雇われて働いた。わたしたちはあるときは家で働き、またあるときは外で働き、絶え間なく働くことで不自由のない生活をする事ができた。

56 千八百二十三年に、父の家族は、わたしの長兄

52 ①モル6、6、GS「金版」
②GS「ウリムとトンミム」
③GS「胸当て—天の王国」

①アルピンの死によつてひどい苦難に遭つた。千八百二十五年十月に、わたしはニューヨーク州シエンゴ郡に住むジョサイア・ストールという名の老紳士に雇われた。彼はペンシルベニア州サスケハナ郡ハーモニーでスペイン人によつて開かれた銀山のことを聞き、わたしを雇い入れるに先立つて、できればその銀山を発見しようとして試掘を行つてゐた。わたしが行つて彼とともに生活するようになってから、彼はほかの使用人たちとともにわたしを伴つて、その銀山を探す試掘に当たさせた。わたしはそこで一か月ほど働き続けたが、わたしたちの仕事はうまくいかなかつた。それでついにわたしは、その老紳士を説き伏せてその試掘をやめさせた。このことから、わたしが山師であつたという話が広く言われるようになったのである。

57 わたしはこのように雇われていた間、その地のアイザック・ヘイルという人の家に下宿していた。わたしが（ヘイル氏の娘である）わたしの妻エマ・ヘイルに初めて会つたのは、そこでのことであつた。千八百二十七年一月十八日、わたしがまだストール氏に雇われて働いていたときに、わたしたちは

結婚した。

58 わたしが示現を見たとき主張し続けたので、わたしに対する迫害はなおも続き、妻の父の家族は、わたしたちが結婚することにひどく反対した。したがつて、わたしは彼女をどこかよそに連れて行くほかなかつた。それでわたしたちは出かけて行き、ニューヨーク州シエンゴ郡サウスバインブリッジのタービル治安判事の家で結婚した。わたしは結婚後すぐに、ストール氏のもとを去り、わたしの父の家に歸つて、その季節は父とともに農業に従事した。59 ついに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てを手に入れる時がやつて来た。千八百二十七年九月二十二日、わたしがいつものように満一年目に、それらが隠されている所へ行くと、あの同じ天の使者が、それらを次の責任とともにわたしに渡してくださった。すなわち、わたしはそれらに対して責任を持たなければならぬ、もしわたしが不注意や自分の怠慢でそれらを失うならば、わたしは絶たれるであらう、しかしその方、つまりその使者がそれらを取りに来られるまで、わたしがそれらを保存するためあらゆる努力を尽くすならば、それらは守られ

57 56 ① 教義 137・5-8
① GS「スミス、エマ・ヘイル」

58 58 ① GS「迫害」

② GS「聖文」保存されるべき聖文」

る、というのであった。

60 わたしは間もなく、なぜそれらを安全に保つたためにそのような厳しい責任を課せられたのか、またわたしが自分に求められたことを成し遂げたときにそれらを取りに来るとなぜ使者が言われたのか、その理由が分かった。わたしがそれらを持つていることが知れるやいなや、わたしからそれらを奪おうとするあらんかぎりの努力が払われたからである。そのためにも思いつくかぎりのあらゆる策略が実行に移された。迫害は以前にも増して激しく、容赦のないものとなり、大勢の人が、できればわたしからそれらを奪おうと絶えず機会をうかがった。しかし、わたしが求められたことをそれらによって成し遂げるまで、それらは神の知恵によって、わたしの手の中で無事であった。そして、前もって定められたとおり、使者がそれらを取りに来られたとき、わたしはそれらを使者に引き渡したのである。そして、千八百三十八年五月二日の今日まで、その使者がそれらを管理しておられる。

61 しかしながら、騒ぎはなおも続き、父の家族について、またわたし自身について偽りを言い広めるた

めに、常におびただしいうわさが流された。もしわたしがその千分の一を述べたとしても、何冊もの本になるであろう。しかし、迫害が耐えられないほどになったので、わたしはやむを得ずマンチェスターを離れて、妻とともにペンシルベニア州サスケハナ郡へ行くことにした。わたしたちは非常に貧しく、迫害がひどいために貧しさから抜け出せず、苦難のただ中で出発の準備をしていたとき、マーティン・ハリスという名の紳士と親しくなった。彼はわたしのところに来ると、わたしたちの旅の助けになるようにと五十ドルくれた。ハリス氏はニューヨーク州ウエイン郡パルマイラ町に住んでいる人で、社会的地位のある農場主であった。

62 この時宜にかなった援助によって、わたしはペンシルベニアの目的地に着くことができた。そしてそこに着くとすぐに、わたしは版から文字を写し取ることを始めた。わたしはかなりの文字を写し取り、ウリムとトンミムによってそれらの多くを翻訳した。これを行なったのは、十二月に妻の父の家に着いてから翌年の二月までの間のことであった。63 この二月のあるとき、前に述べたマーティン・ハ

61 ① 教義 1、
GS「ハリス、
マーティン」
② ① GS「ウリムと
トンミム」

リス氏がわたししたところのところにやって来て、わたしが版から書き取っておいた文字を取り、それを持ってニューヨーク市へ向かった。彼とその文字に関して起こった出来事については、彼が帰って来てわたしに語った彼自身の言葉をお伝えする。それは次のとおりであった。

64「わたしはニューヨーク市へ行き、翻訳された文字をその翻訳とともに、文学上の学識があることで広く知られている一紳士、チャールズ・アンソン教授に披露した。するとアンソン教授は、この翻訳は正確であり、エジプト語から翻訳されたものでこれほど正確なのを見たことがないと述べた。その後、わたしがまだ翻訳されていないものを彼に見せたところ、彼は、それらはエジプト語、カルデア語、アッシリア語、およびアラビア語であると言った。また、それらはほんとうの文字であると言った。そして、それらが本当の文字であることと、それから翻訳されたものの翻訳も正確であることをパルマイラの人々に証明する証明書をわたしにくれた。そこで、わたしはその証明書を取ってポケットに入れ、まさにその家を去ろうとしたとき、アン

ソン氏はわたしを呼び返して、どうしてその青年は金版を見つけた場所にその金版のあることが分かったのかと尋ねた。そこでわたしは、神の天使が彼にそれを明らかにしたと答えた。

65すると彼は、『その証明書を見せてください』とわたしに言った。それでわたしがポケットからそれを取り出して彼に渡すと、彼はそれを取って細かく破って、今どき天使の働きのようなものなどないと言ひ、また、その版を持って来れば翻訳してあげようと言った。そこでわたしは、版の一部は封じられており、持つて来ることを禁じられていると告げた。すると彼は、『わたしは封じられた書を読むことはできない』と答えた。わたしは彼のもとを去り、ミッチェル博士のところへ行つたが、彼も文字と翻訳の両方に関してアンソン教授が言ったことを認めた。」

オリバー・カウドリ、「モルモン書」の翻訳に当たって筆記者を務める。ジョセフとオリバー、バプテスマのヨハネからアロン神権を受ける。二人はバプテスマを受け、聖任され、預言の霊を受ける。(第六十六—七十五節)

65 ① GS「天使」
② イサヤ 29:11-12
2ニフ27:10
エテ4:4-7

66 千八百二十九年四月五日(1)に、オリバー・カウドリがわたしの家(いえ)にやつて来たが、わたしはそのときまで一度も彼(かれ)に会(あ)ったことがなかった。彼はわたしの父(ちち)が住(す)んでいた所の近く(ちか)の学校(がっこう)で教えており、わたしの父(ちち)も子供(こども)をその学校(がっこう)に通(か)わせていたので、一時期(いちじ)父(ちち)の家(いえ)に下宿(げしやく)して、その間(あいだ)に家族(かぞく)から、わたし(わたし)が版(はん)を受け取(と)ったこと(こと)についての詳(くわ)しい事情(じじょう)を告(つ)げられ、それでわたし(わたし)に尋(たず)ねるためにやつて来たと言(い)った。

67 カウドリ氏(し)が到(と)り着(き)して二日(ふた)後(ご)(四月(が)七日(に))に、わたし(わたし)は『モルモン書(しょ)』の翻(ほん)訳(やく)に取(と)りか(か)かり、彼(かれ)はわたし(わたし)のために筆(ひつ)記(き)し始(はじ)めた。

68 わたし(わたし)たちはな(な)お(お)も翻(ほん)訳(やく)の仕(し)事(じ)を続(つづ)けていたが、その翌(よ)月(げつ)(千八百二十九年五月)のある日(ひ)、わたし(わたし)たちは、版(はん)の翻(ほん)訳(やく)の中(なか)に述(な)べられてい(い)るの(の)を見(み)つけ(け)た罪(つみ)の赦(ゆる)しのため(ため)のバプテスマ(ば)プテスマ(ま)に關(かん)して主(しゅ)に祈(いの)つて向(む)かうた(た)めに、森(もり)の中(なか)に入(はい)って行(い)った。わたし(わたし)がこ(こ)のよう(よう)に祈(いの)って、主(しゅ)に呼(よ)び求(もと)めていた(いた)とき、天(てん)から(か)らの使(し)者(しや)が光(ひかり)の雲(うも)の中(なか)を降(くだ)って来(こ)られ(られ)た。そ(そ)して、その使(し)者(しや)はわたし(わたし)たち(ち)の上(うへ)に手(て)を置(お)き、次(つぎ)のよう(よう)に言(い)ってわたし(わたし)たち(ち)を聖(せい)任(にん)され(られ)た。

69 「わたし(わたし)と同じ(おな)僕(しもべ)である(である)あなた(あなた)が(が)たに、メシヤ(め)シヤ(や)の御(み)名(な)によ(よ)つて、わたし(わたし)はアロン(あ)ロンの神(しん)権(けん)を授(さ)げ(げ)る。これは天(てん)使(し)の働(はたら)きの鍵(かぎ)と、悔(あ)らた改(か)めの福(ふく)音(おん)の鍵(かぎ)と、罪(つみ)の赦(ゆる)しのため(ため)に水(みず)に沈(しず)めるバプテスマ(ば)プテスマ(ま)の鍵(かぎ)を持(も)つ。また、レビ(れ)ビの子(こ)ら(ら)が再(また)義(ぎ)をもつて(も)つてさ(さ)げ物(もの)を主(しゅ)にさ(さ)げ(げ)るまで、これは決(け)して再(また)び地上(ち)上(じやう)から取(と)り去(さ)られる(られる)こと(こと)はな(な)い(い)であ(であ)ら(ら)う。」

70 その方(かた)は、このアロン(あ)ロンの神(しん)権(けん)には聖(せい)霊(れい)の賜(たま)物(もの)を授(さ)げ(げ)るため(ため)の按(あん)手(て)をす(す)る力(ちから)はな(な)い(い)が、これ(これ)は將(しょう)来(らい)わ(わ)たし(た)しに授(さ)げ(げ)ら(ら)れる(れる)と言(い)わ(わ)れた(た)。また(また)その方(かた)は、行(い)ってバプテスマ(ば)プテスマ(ま)を受(う)ける(ける)よう(よう)にわたし(わたし)たち(ち)に命(めい)じ、わたし(わたし)がオリバー・カウドリ(かうど)りにバプテスマ(ば)プテスマ(ま)を施(ほ)し、その後(のち)彼(かれ)がわたし(わたし)にバプテスマ(ば)プテスマ(ま)を施(ほ)す(す)よう(よう)に指(し)示(し)され(られ)た。

71 それでわたし(わたし)たちは行(い)ってバプテスマ(ば)プテスマ(ま)を受(う)けた(た)。わたし(わたし)がま(ま)ず彼(かれ)にバプテスマ(ば)プテスマ(ま)を施(ほ)し、その後(のち)、彼(かれ)がわたし(わたし)にバプテスマ(ば)プテスマ(ま)を施(ほ)した(た)。それ(それ)から、わたし(わたし)が彼の(かれ)頭(あたま)に手(て)を置(お)いて、彼(かれ)をアロン(あ)ロンの神(しん)権(けん)に聖(せい)任(にん)し、その後(のち)、彼(かれ)がわたし(わたし)に手(て)を置(お)いて、わたし(わたし)を同(おな)じ神(しん)権(けん)に聖(せい)任(にん)した(た)。そのよう(よう)にわたし(わたし)たちは命(めい)じら(られ)た(た)から(ら)である(である)。*

66 ① GS「カウドリ、オリバー」
 68 ① GS「罪の赦し」
 ② GS「バプテスマ」
 ③ GS「ヨハネ(バプテスマの)」
 ④ 民数11:25、エテ2:4-5、14、教義34:7
 ⑤ 簡条1:5、GS「按手」
 ⑥ GS「権威、権限、権能」
 「聖任」
 69 ① GS「アロン神権」
 ② 申命10:8、教義13章、124、39、GS「レビ」レビの部族」
 70 ① GS「聖霊の賜物」

72このときわたしを訪れて、わたしたちにこの神権を授けてくださった使者は、自分の名はヨハネといい、『新約聖書』の中でバプテスマのヨハネと呼ばれている者で、自分はメルキゼデクの神権の鍵を持つ④テロとヤコブとヨハネの指示の下に働いていると言われた。また、ふさわしいときにメルキゼデクの神権もわたしに授けられ、わたしは教会の第一の長老と呼ばれ、彼(オリバー・カウドリ)は第二の長老と呼ばれる、と言われた。わたしがこの使者の手によって聖任され、バプテスマを受けたのは、千八百二十九年五月十五日のことであった。

73わたしたちはバプテスマを受けて水から上がるとすぐに、天の御父からの大いなる栄光ある祝福を受けた。わたしがオリバー・カウドリにバプテスマを施すやいなや、聖霊が彼に降られ、彼は立ち上がって、間もなく起こるはずの多くのことについて預言した。さらにまた、わたしも彼によってバプテスマを受けるとすぐに、預言の霊を受けて立ち上がり、この教会の起こりと、教会に關連のあるその他の多くのことと、この時代の人の子らについて預言した。わたしは聖霊に満たされ、わたしは

ちの救いの神を喜びたたえた。

74今やわたしたちの心に光が注がれ、わたしたちは聖文をはつきりと理解できるようになってきた。より不明瞭な聖句の正確な意味と意図が、以前に一度も経験することのできなかった方法で、あるいは以前に考えもしなかった方法でわたしたちに明らかにされたのである。しかし、すでに周りの地方に迫害の氣運が現れていたため、しばらくの間、わたしたちは神権を受け、バプテスマを受けた事情を秘密にせざるを得なかった。

75わたしたちは時々、暴徒に襲われるという脅威を加えられた。しかも、これが信仰を告白する人々によってであった。そして、わたしたちに暴行を加えようとする彼らの企ては、(神の摂理により)妻の父の家族の影響力によって何とかとどめられていた。妻の父の家族はわたしに好意的になつていて、暴徒に対抗し、わたしが何の妨げもなしに翻訳の仕事を続けられるようにすることをいとわなかった。それで彼らは、すべての不法行為から可能なかぎりわたしたちを守ると申し出て、それを約束してくれたのである。

72 ①GS「ヨハネ」
 ②GS「バプテスマの」
 ③GS「メルキゼデク神権」
 ④GS「神権の鍵」
 ⑤GS「テロ」
 ⑥GS「ヤコブ」
 ⑦GS「ヨハネ」
 ⑧GS「ヨハネの子」
 ⑨GS「ヨハネの子」
 74 GS「理解」
 75 GS「聖霊」
 ⑩GS「預言」
 ⑪GS「メソジスム」

*オリバー・カウドリは、これらの出来事を次のように述べている。「これらの日々は、決して忘れられないものであった。天の靈感によって語られた声、この胸にこの上ない感謝の念を呼び起こした声の下に座していたのである。彼が『モルモン書』と呼ばれる歴史すなわち記録を、ウリムとトンミム、すなわちニーファイ人が『解訳器』と呼んだものを用いて翻訳するままに、わたしは、来る日も来る日も、彼の口から出る言葉を絶え間なく書き続けた。

モルモンとその忠実な息子モロナイが述べた、かつて天からの愛と恵みを受けた民についての興味深い話をわずか数語でもここに採り上げるのは、わたしが現在意図していることではない。したがって、これは将来に譲ることにして、わたしが序論の中で述べたように、この教会の起こりに直接に関係のある若干の出来事に直ちに移動することにしよう。偏屈者たちの洪面と偽善者たちの中傷のまった中を進み出て、キリストの福音を心から受け入れた幾千もの人々

にとつて、これらの出来事は快いことだらう。

『イエス・キリストの復活による明らかな良心』をもって申し開きをするために水の墓の中に葬られることによつて、進んで物事に取り組む心を示したいと望むことなしには、だれも冷静な状態で、人が救い主の教会を築き上げる具体的な方法について救い主の口からニーファイ人に与えられた数々の指示を翻訳して書き記すことはできなかったであろう。腐敗が人々の間に見られるあらゆる形式と制度のうえに不確実性を広げている場合は、特にそうである。

この大陸におけるヤコブの子孫の残りの方者に対する救い主の働きについて述べられた話をわたしが記した後、預言者がそのようにならざるであらうと言つたとおりに、暗闇が地を覆い、深い闇が人々の心を覆っているのを認めるのは容易なことであった。さらに深く考えると、宗教に関するひどい争いと騒ぎのまった中で、だれも福音の儀式を執行する神からの権能を持つていな

かったことを認めるのも同じく容易であった。キリストの証が預言の霊にほかならず、キリストに従う民が地上にいたあらゆる時代に、キリストの宗教が直接の啓示によつて基を置かれ、築かれ、支えられてきたことを考えると、啓示を否定する人々がキリストの名によつて御業をつかさどる権能を持つているのだらうかと、疑問が起ころである。一度人々の前に現れることを許されるとその悪知恵が危険である人々によつて、これらの事実が埋められ、注意深く隠されたとしても、これらがわたしたちに隠されることはもはやなかった。そしてわたしたちは「立つてバプテスマを受けなさい」という命令が与えられるのをただ待っていたのである。

これは望んで間もなく実現した。隣れみに富んでおられ、へりくだった者の絶え間ない祈りにいつも快くこたえてくださる主は、わたしたちが人々の住まいから離れて熱烈に主に呼び求めたところ、わたしたちに御心を示してくださった。突如、永遠の

ただ中から来たかのように、贖い主の聲がわたしたちに平安を告げられた。それと同じ時に、とばりが分けられ、神の天使が栄光をまとつて降つて来て、わたしたちが切に待ちこがれていた知らせを告げ、悔い改めの福音の鍵を渡してくださったのである。何という喜びであろう。何という驚異であろう。何という驚きであろう。世の人々が苦しみ、当惑していたときに—幾百万の人々が目の不自由な人のように壁を手探りしていたときに、また万人が一団となつて不確実な状態にとどまつていたときに、『白昼の光』の中にいるように、まことにそれ以上に、そのとき自然界にその輝きを放っていた五月の陽光にも勝つて、わたしたちの目は見、わたしたちの耳は聞いたのである。そのとき、その声は、優しいながらも心の底まで貫いた。そして、『わたしはあなたがたと同じ僕である』というその言葉は、すべての恐れを吹き飛ばした。わたしたちは耳を傾け、わたしたちは目を注ぎ、わたしたちは感嘆した。それは栄光からの天使

の声であり、またそれはいと高き御方からの御告げであつた。そして、わたしたちはそれを聞いて喜んだ。同時に、いと高き御方の愛はわたしたちの心に火をつけ、わたしたちは全能者の示現に包まれた。疑いの余地がどこにあるか。どこにもない。不確実は消えうせ、疑いは没してもう姿を現すことはなかつた。同時に、虚構と欺きも永久に消えうせたのである。

しかし、愛する兄弟よ、考えてみてほしい。さらにしほし考えてみてほしい。彼が、『わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によつて、わたしはこの神権とこの権能を授ける。これらは、レビの子らがやがて義をもつてささげ物を主にささげるためにこの世にそのままあるであろう』と言われ、その手によつてわたしたちが聖なる神権を受けたとき、どれほどの喜びがわたしたちの心を満たし、またどれほど驚いてわたしたちがひれ伏したかを。(このような祝福を受けてひざまずかない者がいるだろうか。)

わたしはこの心の感情や、このときにわたしたちを取り囲んだ荘嚴な美と栄光を、あなたがたにありのまま描写しようとは思わない。しかし、地球や人は、時の雄弁さをもつてしても、この聖なる方のように言葉で魅力的で荘嚴な表現にできそうもない、とわたしが言えば、あなたがたは信じているであろう。そのようなことはできないのである。また、この地球には、喜びを与え、平安を授ける力も、聖なる御霊の力によつて告げられたそれぞれの言葉に含まれる知恵を理解する力もないのである。人間は同じ人間を欺き、欺きは欺きに伴い、悪い者の子らは愚かで無知な者を従わせる力を持つかもしれない。こうして、ついに虚構だけが多くの人を養い、偽りの実は輕薄な者をその流れに乗せて墓場へと運ぶ。しかし、彼の愛の指に一度触れば、まことに天界から一条の栄光があれば、あるいは救い主の口から、永遠の懐からの一言があれば、それはすべて取るに足りないものとなり、それは記憶から永久に消し去られ

てしまうのである。自分たちが天使の前にいるという確信、自分たちがイエスの声を聞いたという確実さ、ならびに神の御心によつて語られた清い方から流れ出たままの汚れない真理は、わたしにとつて筆紙に尽

くし難い。そこでわたしは、この世にとどまることを許されている間は、この救い主の慈しみの表れをいつも驚嘆と感謝の念をもつて見るであらう。完全さがあつて罪が決して来ることのないあの住まいにおいて、

わたしは決して終わりのないその日に神を
あがめたいと思ふのである。」—*Messenger
and Advocate* (『メッセンジャー・アンド・ア
ドボケイト』第一卷(千八百三十四年十月)、
十四—十六ページ)。

末日聖徒イエス・キリスト教会の

信仰箇条

- 1 わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。
- 2 わたしたちは、人は自分の罪のゆえに罰せられ、アダムの背きのゆえには罰せられないことを信じる。
- 3 わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことにより救われ得ると信じる。
- 4 わたしたちは、福音の第一の原則と儀式とは、第一に主イエス・キリストを信じる信仰、第二に悔い改め、第三に罪の赦しのために水に沈めるバプテスマ、第四に聖霊の賜物を授けるための按手であることを信じる。
- 5 わたしたちは、福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は預言によって、また権能を

- 持つ者による按手によって、神から召されなければならぬと信じる。
- 6 わたしたちは、初期の教会にあつたと同一の組織、すなわち、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師などがあることを信じる。
- 7 わたしたちは、異言、預言、啓示、示現、癒し、異言の解釈などの賜物があることを信じる。
- 8 わたしたちは、正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じる。また、『モルモン書』も神の言葉であると信じる。
- 9 わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。
- 10 わたしたちは、イスラエルの文字どおりの集合と十部族の回復とを信じる。また、シオン（新エルサレム）がアメリカ大陸に築かれること、キリストが自ら地上を統治されること、そして地球は更新されて楽園の栄光を受けることを信じる。
- 11 わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全

信仰箇条

- 1 GS 神、神会—父なる神
- 2 GS イエス・キリスト
- 3 GS 神、神会—子なる神
- 4 GS 神、神会—聖霊なる神
- 5 GS 聖霊
- 6 GS 信じる
- 7 ① 申命24・16、エゼ18・19、20、GS 「責任を負う」
- 8 GS 「預言の自由」
- 9 GS 預言、アダムとエバの
- 10 GS 贖罪
- 11 GS 福音
- 12 GS 律法
- 13 GS 従順、従う
- 14 GS 毛サ7・9、GS 「救い」
- 15 GS 信仰
- 16 GS 悔い改め
- 17 GS 「罪の赦し」
- 18 GS 「バプテスマ」
- 19 GS 聖霊の賜物
- 20 GS 按手
- 21 GS アル13・8、16
- 22 GS 権威、権限、権能
- 23 GS 「神権」
- 24 GS 按手
- 25 GS 召し、神の召し
- 26 GS 「まことの教会のしるし」
- 27 GS 「使徒の組織」
- 28 GS 「預言者」
- 29 GS 「バプテスマ」
- 30 GS 「祝福」
- 31 GS 「伝道者」
- 32 GS 「異言の賜物」
- 33 GS 「預言」
- 34 GS 「示現」

能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。

12 わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じる。

13 わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべき

ことを信じる。実に、わたしたちはパウロの勧告に従うと言ってもよい。わたしたちはすべてのことを信じ、すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍ぶようにと望んでいる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。

ジョセフ・スミス

7 GS「癒し」
 6 ①「コリ12・10」
 7 GS「御霊の賜物」
 8 ①「一テ13・20・40」
 14 ②「26」
 9 GS「言葉、神の」
 ④ GS「モルモン書」
 ① GS「啓示」
 ②「アモ3・7、教義12」
 26 ③「33」GS「聖文」出現を預言された聖文
 10 ①「一テ19・16・17、60」
 ④「一テ49・20・22」
 GS「イスラエル、イスラエルの集合」
 ② GS「イスラエル、エルー行方の知れない十部族」
 ③「エテ13・2・11」
 5、モセ7・18、GS「2」
 ⑤「新エルサレム」
 ④ GS「福千年」
 ⑤ GS「地球（地）―地球の清め」
 ⑥ エデンの園のような状態、イザ11・6・9、35章、51・1・3、65・17・25、エゼ36・35、GS「パラダイス」
 11 GS「栄光」
 ⑦ GS「良心」
 ② GS「選択の自由」
 ③ GS「教義134・11」
 ④ GS「礼拝」
 ① GS「教義58・21・23」
 12 GS「律法」
 ① GS「高潔」
 ② GS「高潔」
 ③ GS「純潔」
 ④ GS「奉仕」
 ⑤ GS「希望」
 ⑥ GS「堪え忍ぶ」
 ⑦ GS「慎み」
 ⑧ GS「徳」